

第6章 計画の推進に向けて

1 成果指標

本計画に定めた施策や取組により、子どもの読書活動が効果的に推進されていることを客観的に把握するため、次のとおり基本方針ごとに成果指標を設定します。

(1) 基本方針1「子どもが本にふれあう機会をふやそう！」

指 標	単位	※現状値	目標値 (令和9年度)	指標の説明
① 1か月に本を1冊以上読む小・中学生の割合	%	83.2	94.0	子どもの読書活動の促進に係る計画全体の取組の効果を測るもの
② 18歳以下の子どもの図書館貸出登録者の割合	%	30.4	33.0	図書館が子どもにどの程度利用されているかを測るもの (登録者数/1月1日現在人口)
③ 子ども資料団体貸出制度を活用している小・中学校数	校	58	70	学校での本との出会いの機会や環境整備の充実のため、制度がどの程度活用されているかを測るもの

(2) 基本方針2「読書の楽しさを伝えあおう！」

指 標	単位	※現状値	目標値 (令和9年度)	指標の説明
④ 「読書は好きですか」という質問に「当てはまる」、「やや当てはまる」と回答した小・中学生の割合	%	69.0	75.0	子どもの読書への関心を測るもの
⑤ 各図書館のおはなし会の参加者数	人	7,080	7,800	乳幼児や小学生が読書の楽しさを知る機会にどの程度貢献しているかを測るもの
⑥ 各図書館の中学生・高校生向けイベントの参加者数	人	161	250	中学生や高校生の主体的な読書活動にどの程度貢献しているかを測るもの

(3) 基本方針3「子どもの読書の応援隊をふやそう！」

指 標	単位	※現状値	目標値 (令和9年度)	指標の説明
⑦ 読書活動でボランティアと協力している学校や施設の割合(対象は、公立の学校・施設)	%	小・中学校 49.1 未就学児施設 100.0 児童関係施設 46.8	小・中学校 66.0 未就学児施設 100.0 児童関係施設 66.0	学校や施設において、子どもの読書活動に関わるボランティアとの協働がどの程度進んだかを測るもの
⑧ ブックスタート事業、セカンドブック事業の利用率	%	ブックスタート 87.5 セカンドブック 28.0	ブックスタート 95.0 セカンドブック 60.0	家庭での絵本の読み聞かせと豊かな親子関係を築くきっかけづくりにどの程度貢献しているかを測るもの

※ 現状値について、指標の②、③、⑤～⑧は、平成30年度。指標の①、④は、令和元年度

2 計画の推進と進行管理

子どもの読書活動を推進するためには、子どもが本を読むことの喜びや楽しさにふれる機会を広げるとともに、その役割を担う周囲の大人に対しても読書への関心を高めることが大切です。そのためには、図書館が中心となって、学校、関係機関、家庭及び地域との相互連携や協力関係を更に深め、一体となった取組に努めます。

また、本計画を着実に推進していくためには、各施策・事業等の進行管理を行い、その結果を検証・評価し、より効果的な事業の推進や計画の見直しに役立てていく必要があります。

このため、平成 26 年 1 月に設置した「子ども読書活動推進会議」において、それぞれの事業の取組状況について確認・検証を行うとともに、成果指標の達成度や、各種統計、アンケート調査等を通して、多角的な視点から評価と進行管理を行います。

資 料 編

○ 子どもの読書活動の推進に関する法律

平成13年法律第154号

(目的)

第1条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第2条 子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第3条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第4条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第5条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第6条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第8条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

第9条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

2 子ども読書の日は、4月23日とする。

3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

○ 衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

1 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

2 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

3 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

4 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

5 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

6 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

○ 相模原市子ども読書活動推進計画検討会議設置要綱

(設置)

第1条 相模原市子ども読書活動推進計画(以下「推進計画」という。)の策定に関する審議及び連絡調整等を行うための庁内組織として、相模原市子ども読書活動推進計画検討会議(以下「検討会議」という。)を置く。

(設置期間)

第2条 検討会議の設置期間は、この要綱の施行の日から平成32年3月31日までとする。

(所掌事務)

第3条 検討会議の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 推進計画の策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、座長が必要と認めること。

(組織)

第4条 検討会議は、生涯学習部長及び別表第1に掲げる所属の長をもって構成する。

2 検討会議の座長は、生涯学習部長をもって充てる。

3 座長に事故があるとき又は座長が欠けたときは、あらかじめ座長の指名する構成員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 検討会議は、座長が必要に応じて招集し、その議長となる。

2 座長は、必要に応じて検討会議に構成員以外の者の出席を求め、意見等を徴することができる。

(ワーキンググループ)

第6条 検討会議に付議する事案の調整等を行う下部組織として、検討会議ワーキンググループ(以下「ワーキング」という。)を置く。

2 ワーキングは、別表第2に掲げる所属の職員(次項に規定するワーキングの長を除き、副主幹以下の者に限る。)をもって構成する。

3 ワーキングの長は、図書館長をもって充て、必要に応じてワーキングを招集し、その議長となる。

4 ワーキングの長は、必要に応じてワーキングに構成員以外の者の出席を求め、意見等を徴することができる。

(庶務)

第7条 検討会議等の庶務は、図書館で処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会議及びワーキングの運営について必要な事項は、座長及びワーキングの長が検討会議及びワーキングに諮って定める。

附 則

この要綱は、平成30年8月21日から施行する。

別表第 1 (第 4 条関係)

所 属	人権・男女共同参画課、障害政策課、こども・若者支援課、 保育課、こども家庭課、教育総務室、学務課、学校教育課、 教育センター、生涯学習課、相模大野図書館、橋本図書館、 図書館
-----	--

別表第 2 (第 6 条関係)

所 属	人権・男女共同参画課、障害政策課、こども・若者支援課、 青少年学習センター、保育課、こども家庭課、教育総務室、 学務課、学校教育課、教育センター、生涯学習課、 相模大野図書館、橋本図書館、図書館
-----	--

○ 計画策定の経過

平成30年度	
7月27日	平成30年度第1回相模原市立図書館協議会 ・第2次計画における取組について
9月28日	第1回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議ワーキング ・第3次計画策定に係るスケジュール等について ・第2次計画における取組について ・アンケート、ヒアリングの実施内容について
10月18日	第1回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議 ・第3次計画策定に係るスケジュール等について ・第2次画における取組について ・アンケート及びヒアリングの実施内容について
11月15日	平成30年度第2回相模原市立図書館協議会 ・第3次計画の策定について
12月	アンケート調査実施（児童生徒、小・中学校図書館担当教諭ほか）
12月～1月	ヒアリング調査実施（読み聞かせボランティアほか）
1月30日	第2回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議ワーキング ・アンケート及びヒアリングの実施結果について ・第2次計画の評価と課題の整理について ・第3次計画策定の方向性について
2月26日	第3回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議ワーキング ・第2次計画の評価と課題の整理について ・第3次計画策定の方向性について
3月19日	平成30年度第3回相模原市立図書館協議会 ・第3次計画の策定について
3月27日	第2回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議 ・アンケート及びヒアリングの実施結果について ・第2次計画の評価と課題の整理について ・第3次計画策定の方向性について
令和元年度	
5月23日	令和元年度第1回相模原市立図書館協議会 ・第3次計画の骨子案について
5月30日	第4回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議ワーキング ・第3次計画の骨子案について
6月11日	第3回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議 ・第3次計画の骨子案について

7月4日	相模原市立小中学校PTA連合会役員会 ・第3次計画の骨子案について
7月9日	第5回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議ワーキング ・第3次計画の計画案について
7月12日	令和元年度第2回相模原市立図書館協議会 ・第3次計画の計画案について
7月25日	第4回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議 ・第3次計画の計画案について
8月23日	第5回相模原市子ども読書活動推進計画検討会議 ・第3次計画の計画案（成果指標等）について
8月29日	令和元年度第3回相模原市立図書館協議会 ・第3次計画の計画案について
12月15日	パブリックコメント実施（1月21日まで） ・意見の提出数3人（14件）
3月6日	相模原市教育委員会 ・第3次計画の策定について（令和2年議案第15号）

○ 相模原市子ども読書活動推進会議設置要綱

(設置)

第1条 相模原市子ども読書活動推進計画(以下「計画」という。)に基づき、関係機関等の連携を深め、効果的な施策の推進を図るとともに、計画の進捗状況の把握、検証等を行うため、相模原市子ども読書活動推進会議(以下「推進会議」という。)を設置する。

(所掌事務)

第2条 推進会議の所掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 計画に係る施策の推進に関すること。
- (2) 計画の進捗状況の把握、評価、検証及び見直しに関すること。
- (3) 関係機関等との連携、協力に関すること。
- (4) その他計画に基づく子どもの読書活動の推進に関すること。

(組織)

第3条 推進会議は、別表に掲げる者で構成する。

(会長及び副会長)

第4条 推進会議に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長は、生涯学習部長をもって充て、副会長は図書館長をもって充てる。
- 3 会長は、推進会議を召集し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第5条 会長は、推進会議において必要があると認めるときは、関係職員の出席を求め、意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条 推進会議の庶務は、図書館において処理する。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成26年1月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２８年４月１日から施行する。

附 則

この要綱は、平成２９年４月１日から施行する。

附 則

この要綱は、平成３０年４月１日から施行する。

附 則

この要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

別表(第３条関係)

推進会議の構成員
生涯学習部長、人権・男女共同参画課長、障害政策課長、こども・若者支援課長、 保育課長、こども家庭課長、教育総務室長、学務課長、学校教育課長、教育センター 所長、生涯学習課長、図書館長、相模大野図書館長、橋本図書館長

○ 子どもの読書活動に関するアンケート調査等の結果

1 目的

第3次相模原市子ども読書活動推進計画の策定にあたり、市内の子どもの読書活動に関する取組を様々な角度から調査し、現状と成果、課題の把握を行い、子どもの読書活動を推進するための新たな施策の基礎資料を得ることを目的として、アンケート調査及びヒアリング調査を実施したもの。

(1) アンケート調査（実施時期：平成30年12月）

対象区分		対象者数	備 考
児童生徒	小学校3年生	494人	市立小学校6校（各区2校）
	小学校5年生	524人	
	中学校2年生	477人	市立中学校6校（各区2校）
小・中学校図書館担当教諭、学校図書館図書整理員	小学校	95人	市立小学校72校
	中学校	50人	市立中学校37校
未就学児施設		148人	幼稚園（17）、保育所（81）、認定こども園（20）、地域型保育事業所（20）、認定保育室（10）
児童関係施設		107人	児童館（24）、こどもセンター（23）、児童クラブ（60）
図書館に子どもと一緒に来館した保護者		353人	

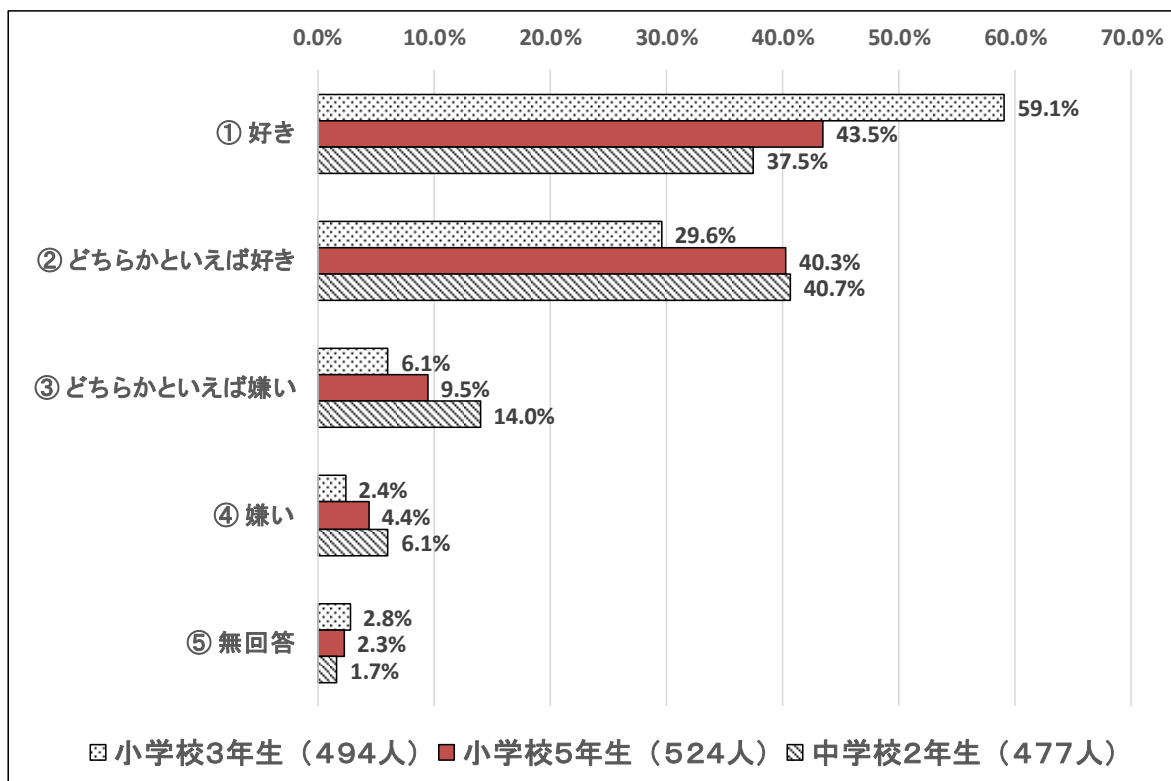
(2) ヒアリング調査（実施時期：平成30年12月～平成31年1月）

対象区分	対象
図書館で活動している読み聞かせボランティア	6団体
特別支援学校（1校）・特別支援学級（小学校3校、中学校2校）の教諭	6校
図書館で活動している高校生（橋本図書館3名、相模大野図書館2名）	5名

2 アンケート結果

(1) 児童生徒

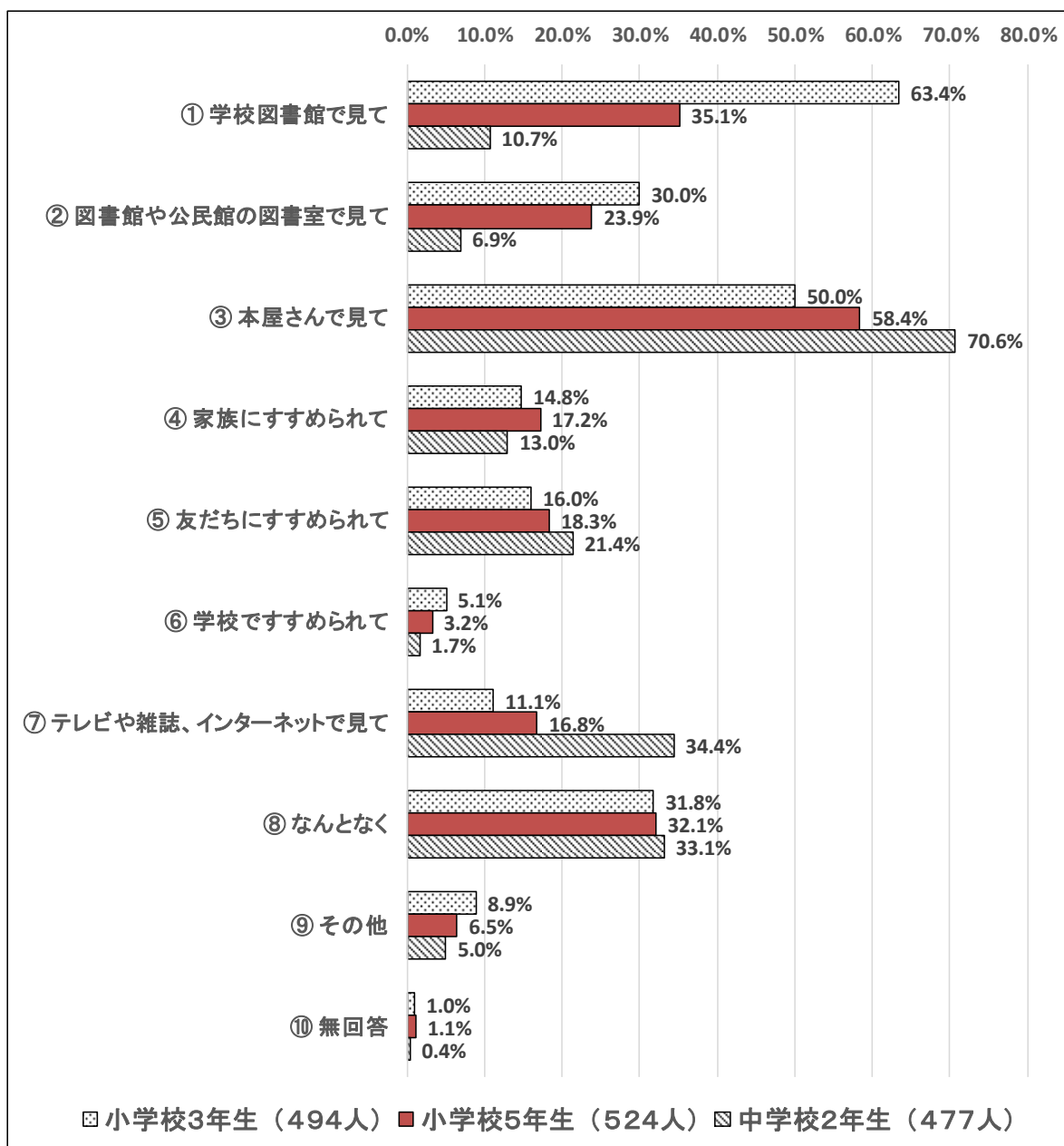
問1 本を読むことは好きですか



○「① 好き」または「② どちらかといえば好き」と回答した割合の合計が小3で88.7%、小5で83.8%、中2で78.2%となっている。

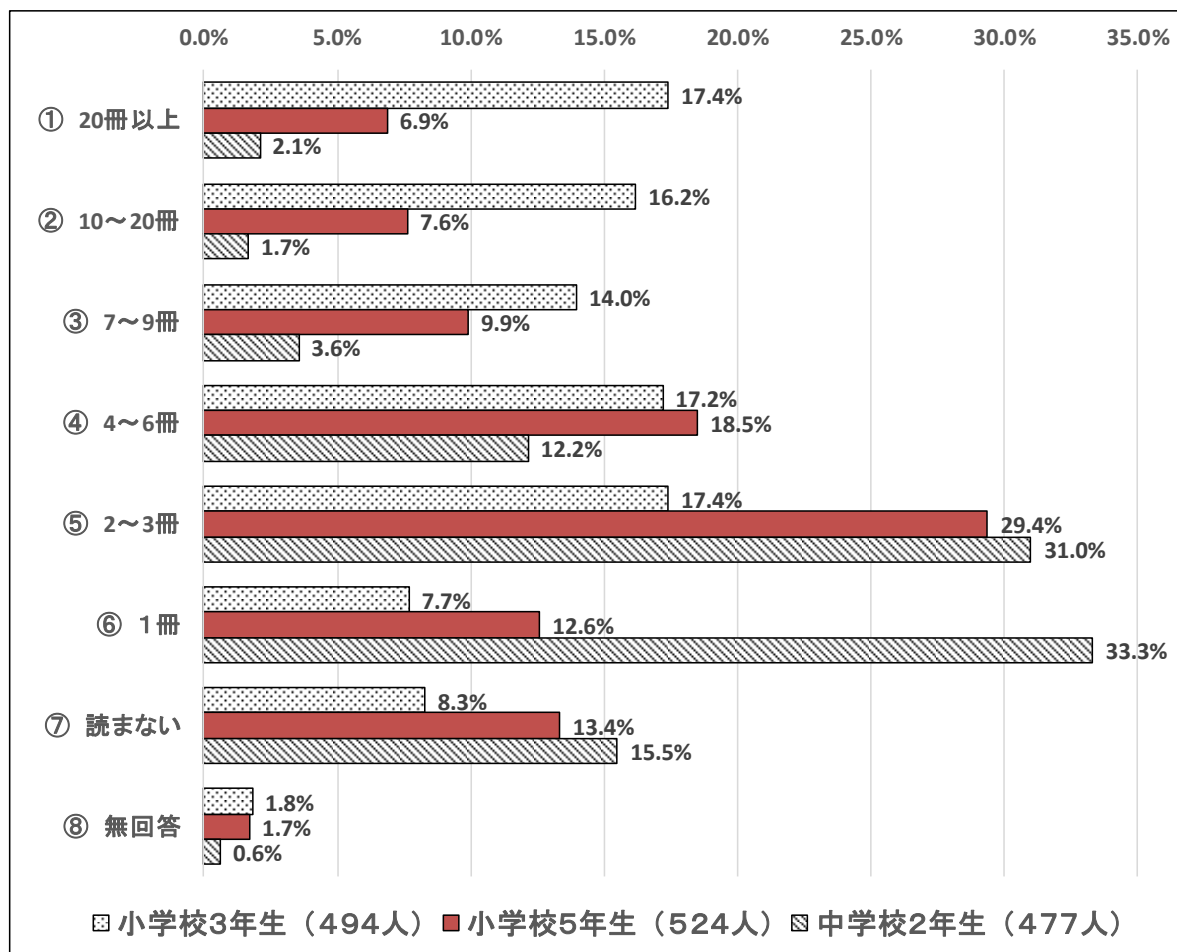
○学年が上がるにつれて「① 好き」と回答した割合が減少し、「④ 嫌い」と回答した割合が増加している。

問2 読む本をどうやって選びますか（3つまで）



○学年が上がるにつれて「① 学校図書館で見て」、「② 図書館や公民館の図書室で見て」と回答した割合が減少し、「③ 本屋さんで見て」、「⑤ 友達にすすめられて」、「⑦ テレビや雑誌、インターネットで見て」と回答した割合が増加している。

問3（1） 1か月間に紙の本を何冊くらい読みますか

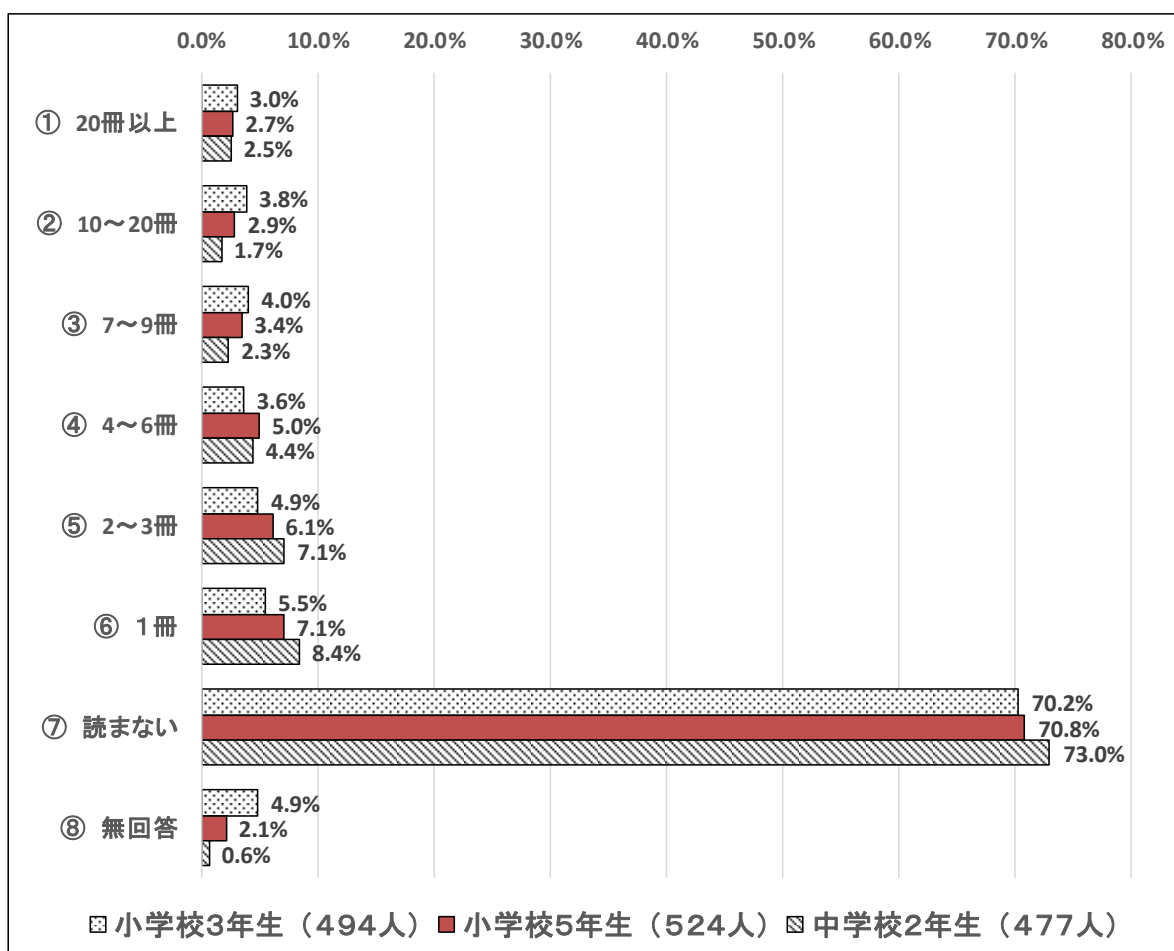


○小3では「① 20冊以上」または「② 2～3冊」（いずれも17.4%）、小5では「⑤ 2～3冊」（29.4%）、中2では「⑥ 1冊」（33.3%）と回答した割合が最も高くなっている。

○各学年とも「⑦ 読まない」と回答した割合が前回調査（平成22年度）と比較して増加している。

＊前回調査において「読まない」と回答した割合は、小3で2.2%、小5で9.6%、中2で10.7%

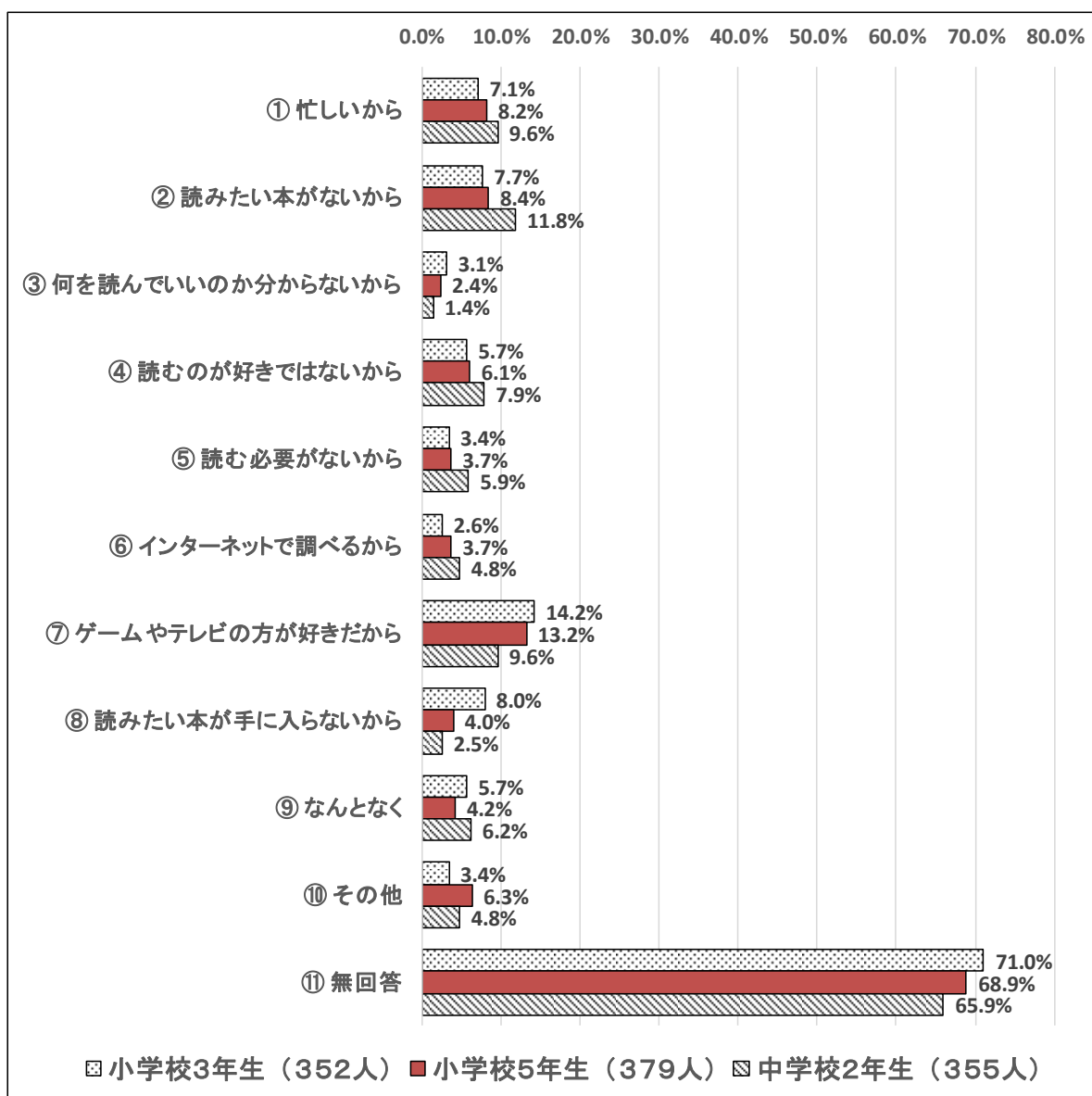
問 3（2） 1 か月間にパソコンやタブレット、スマートフォンなどで読める本（電子書籍）を何冊くらい読みますか



○全学年とも「⑦ 読まない」と回答した割合が70%を超えている。

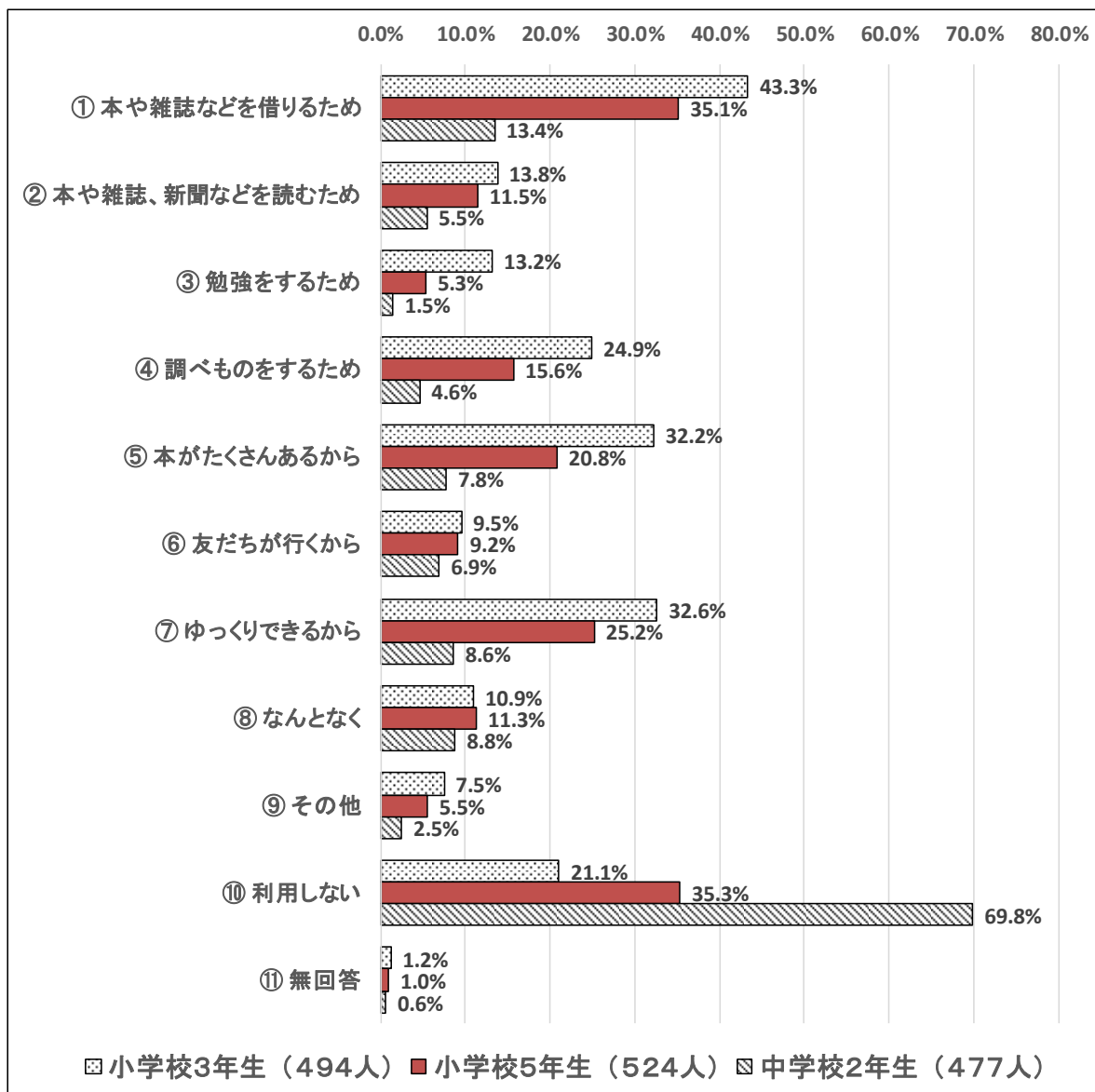
○紙の本は、学年が上がるにつれて読む冊数が少なくなる傾向にあるが、電子書籍については、学年間に大きな差異は無い。

問3（3）（1）と（2）で「読まない」と答えた人に聞きます。読まない理由は何ですか（3つまで）



○学年が上がるにつれて「⑦ ゲームやテレビの方が好きだから」と回答した割合が減少し、「① 忙しいから」、「② 読みたい本がないから」、「④ 読むのが好きではないから」と回答した割合が増加している。

問４（１） 学校図書館を利用する理由は何ですか（３つまで）

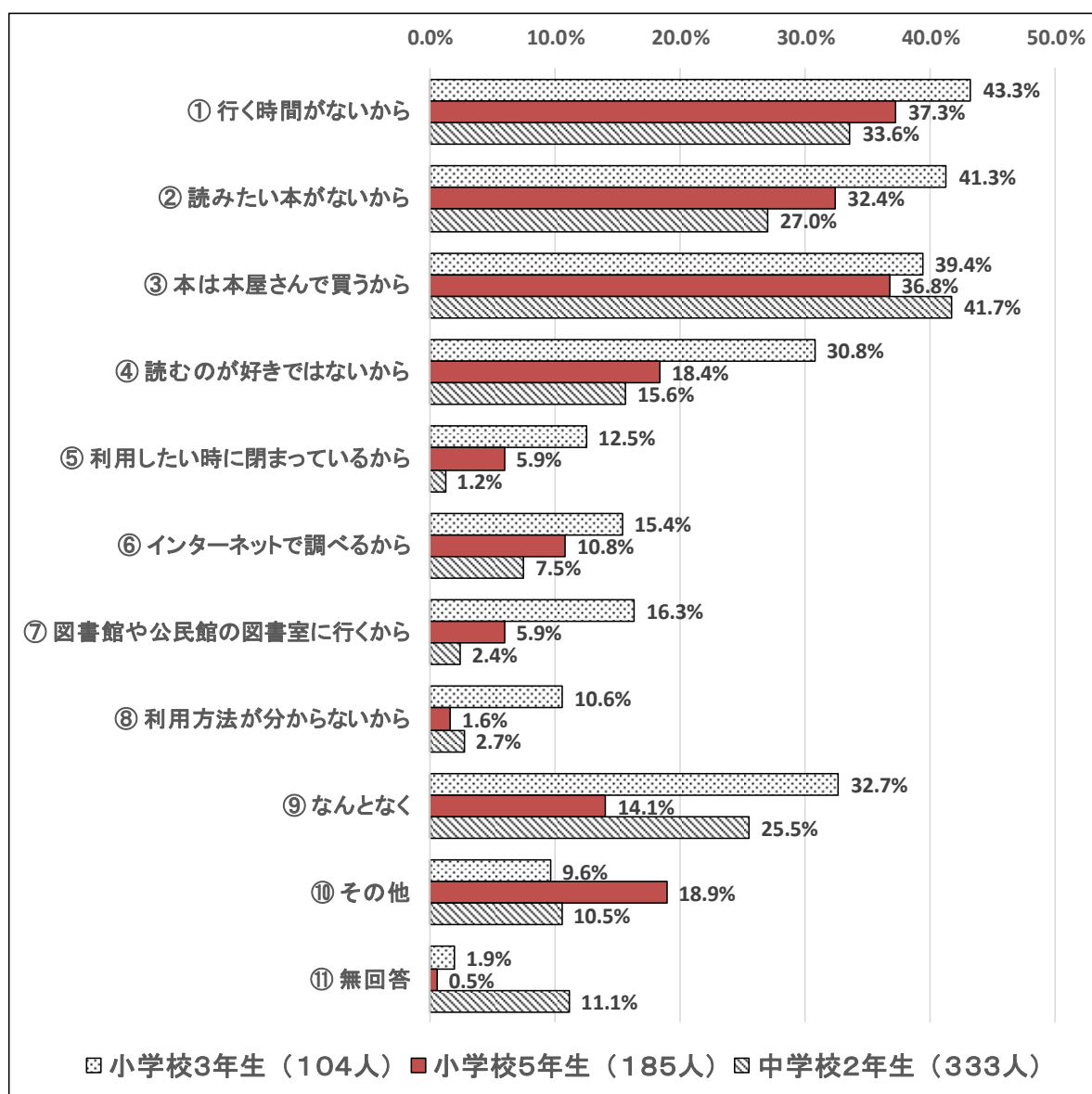


○小3では、「① 本や雑誌などを借りるため」と回答した割合が43.3%で最も高く、「⑦ ゆっくりできるから」が32.6%で続いている。

○小5では、「⑩ 利用しない」と回答した割合が35.3%で最も高く、「① 本や雑誌などを借りるため」が35.1%で続いている。

○中2では、「⑩ 利用しない」と回答した割合が69.8%で他の学年と比較して突出して高くなっている。

問4（2）（1）で「利用しない」と答えた人に聞きます。学校図書館を利用しない理由は何ですか（3つまで）

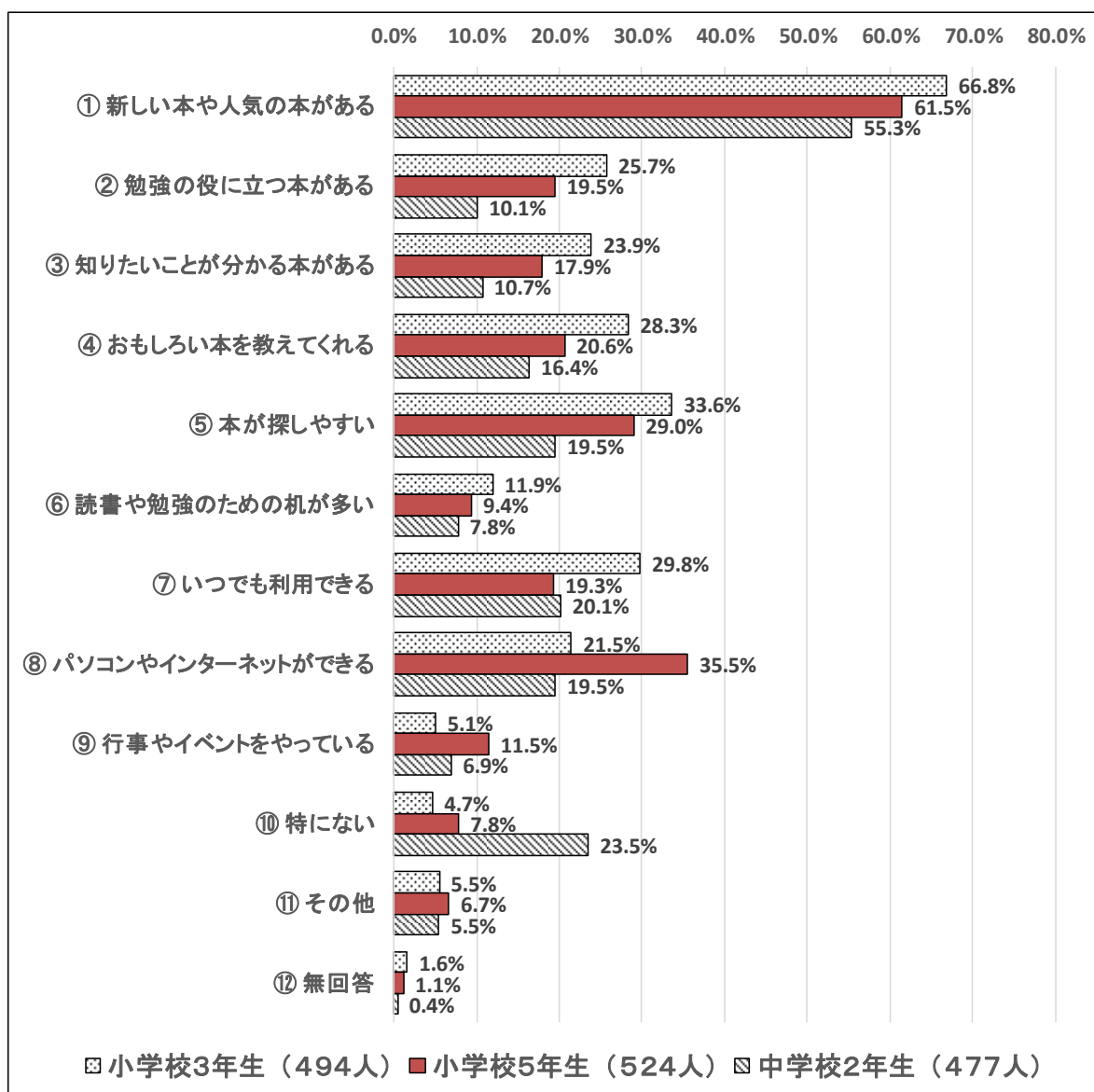


○小3では、「① 行く時間がないから」と回答した割合が43.3%で最も高く、「② 読みたい本がないから」が41.3%で続いている。

○小5では、「① 行く時間がないから」と回答した割合が37.3%で最も高く、「③ 本は本屋さんで買うから」が36.8%で続いている。

○中2では、「③ 本は本屋さんで買うから」と回答した割合が41.7%で最も高く、「① 行く時間がないから」が33.6%で続いている。

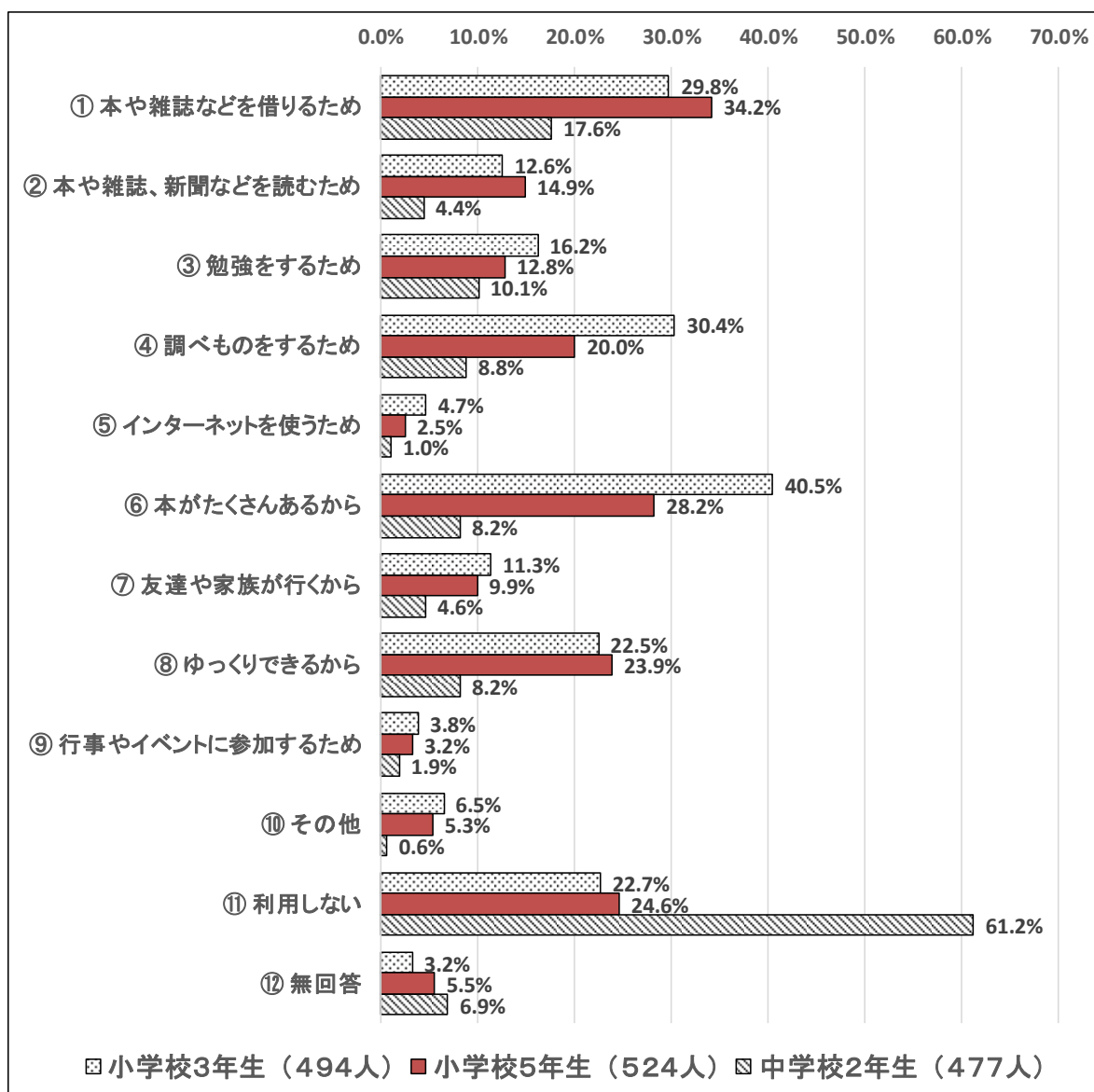
問4（3） どんな学校図書館がいいですか（3つまで）



○全体で見ると「① 新しい本や人気の本がある」と回答した割合が最も高く、「⑤ 本が探しやすい」、「⑧ パソコンやインターネットができる」が続いている。

○小5では、「⑧ パソコンやインターネットができる」と回答した割合が 35.5%で他の学年と比較して高い。

問5（1） 図書館や公民館の図書室を利用する理由は何ですか（3つまで）

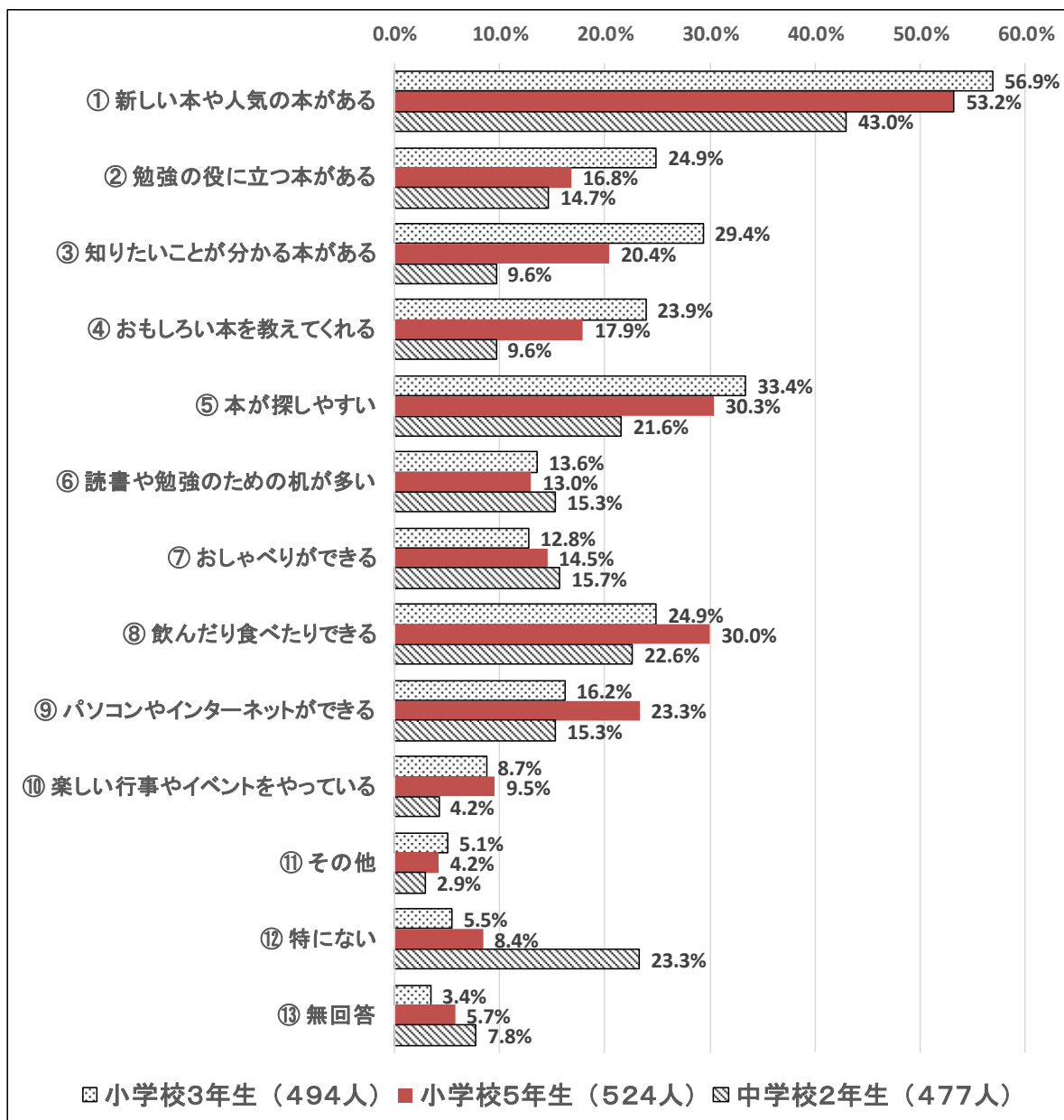


○小3では、「⑥ 本がたくさんあるから」と回答した割合が40.5%で最も高く、「④ 調べものをするため」が30.4%で続いている。

○小5では、「① 本や雑誌などを借りるため」と回答した割合が34.2%で最も高く、「⑥ 本がたくさんあるから」が28.2%で続いている。

○中2では、「⑪ 利用しない」と回答した割合が61.2%で他の学年と比較して突出して高くなっている。

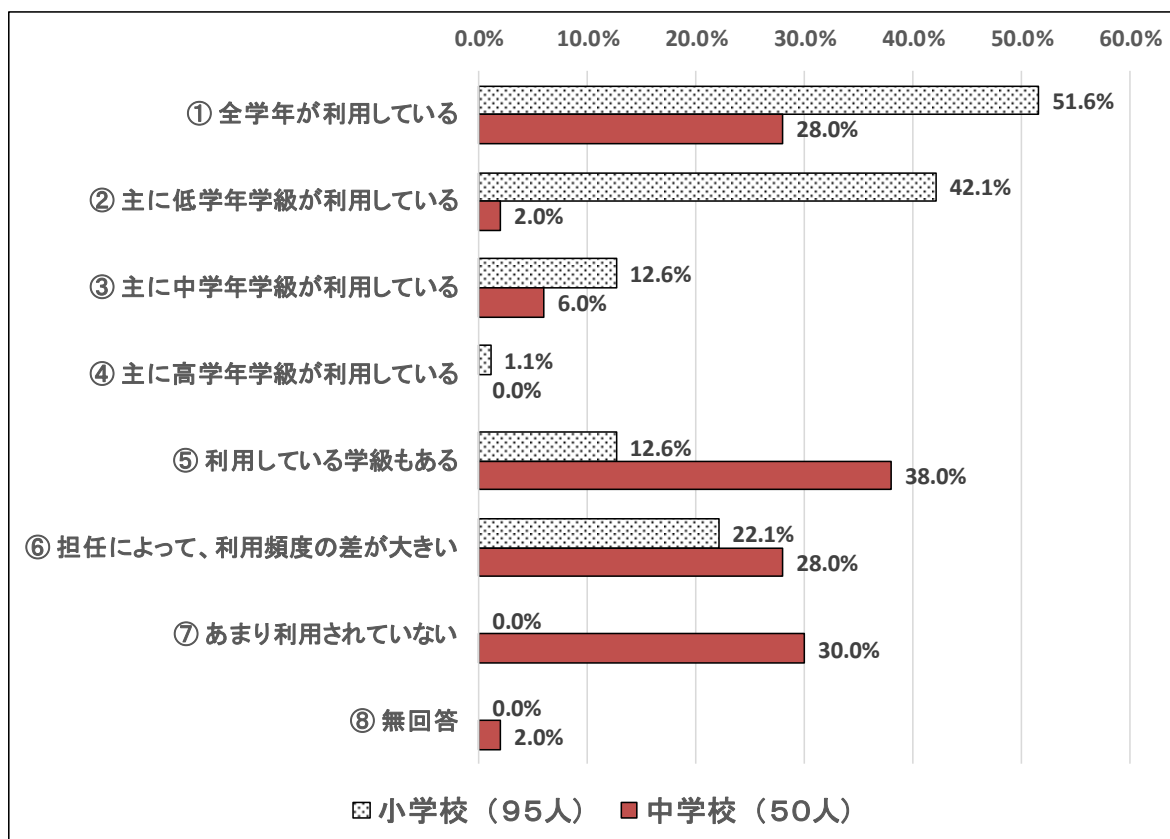
問5（2） どんな図書館や公民館の図書室がいいですか（3つまで）



○全体で見ると「① 新しい本や人気の本がある」と回答した割合が最も高く、「⑤ 本が探しやすい」が続いている点は、学校図書館に関する設問と同様の傾向にあるが、3番目に割合が高いものは、学校図書館に関する設問では、「パソコンやインターネットができる」であるのに対し、本設問では、「⑧ 飲んだり食ったりできる」となっている。

（２）小・中学校図書担当教諭、学校図書館図書整理員

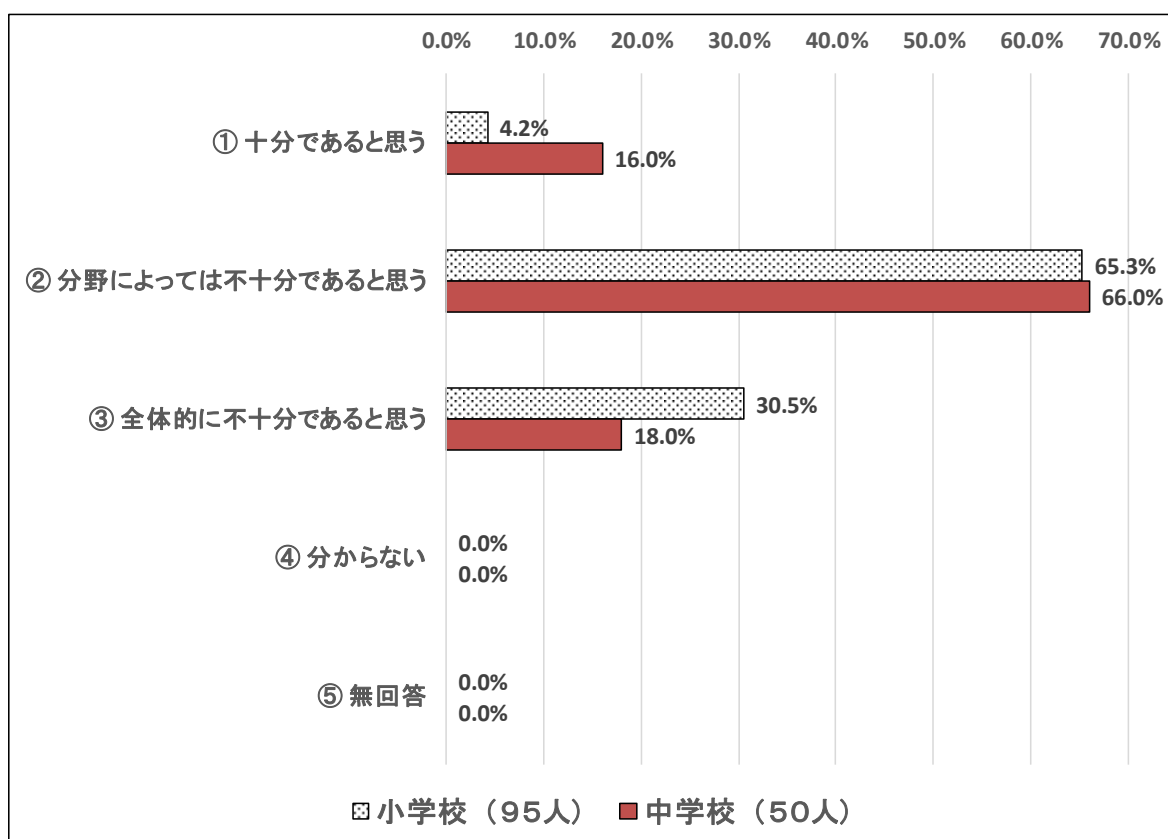
問１ あなたの学校では、授業（学習活動）で学校図書館をどれくらい利用していますか（２つまで）



○「① 全学年が利用している」と回答した割合は、小学校で 51.6%、中学校で 28.0%、
「⑦ あまり利用されていない」と回答した割合は、小学校で 0.0%、中学校で 30.0%
となっているなど、学年が上がるにつれて、利用されない傾向にある。

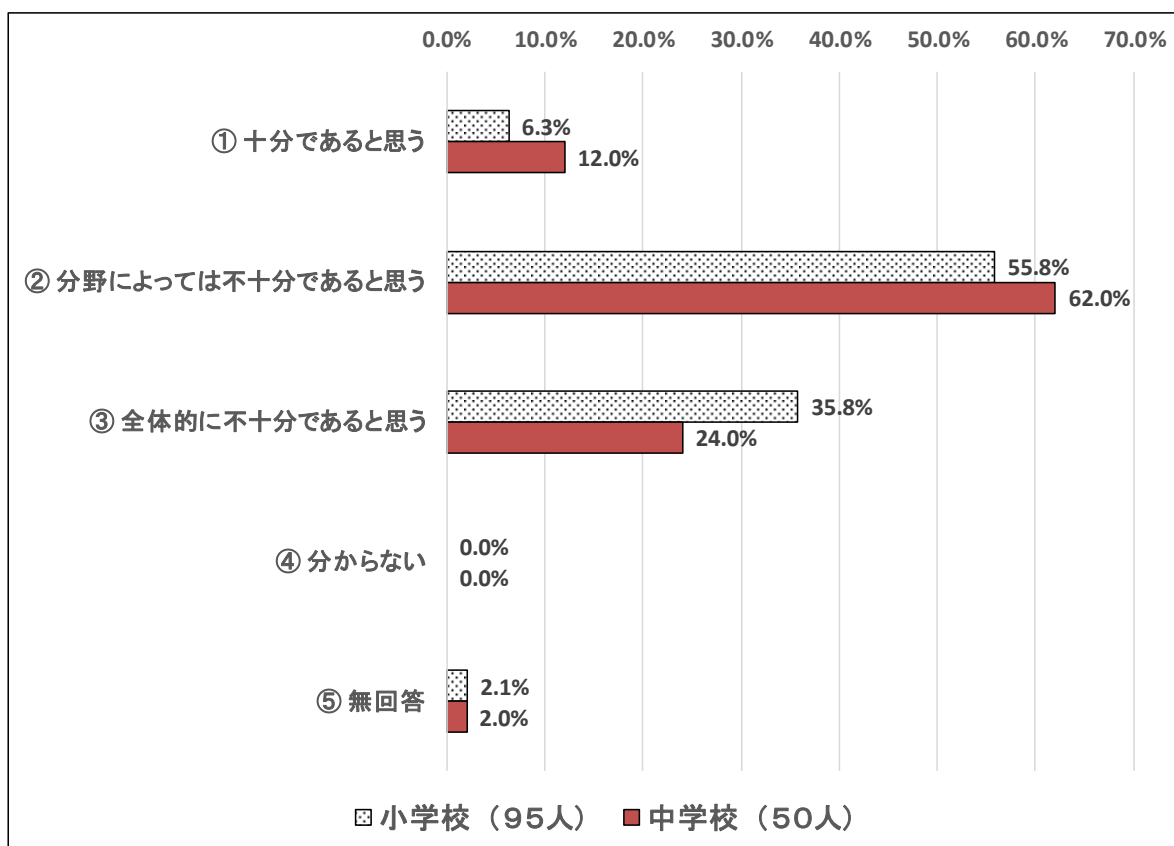
○「⑤ 利用している学級もある」と回答した割合は、小学校で 12.6%、中学校で
38.0%、「⑥ 担任によって利用頻度の差が大きい」と回答した割合は、小学校で
22.1%、中学校で 28.0%となっており、学級や担任によって差がある傾向にある。

問 2（１） あなたの学校図書館では、授業（学習活動）のための本の数は足りていると思いますか



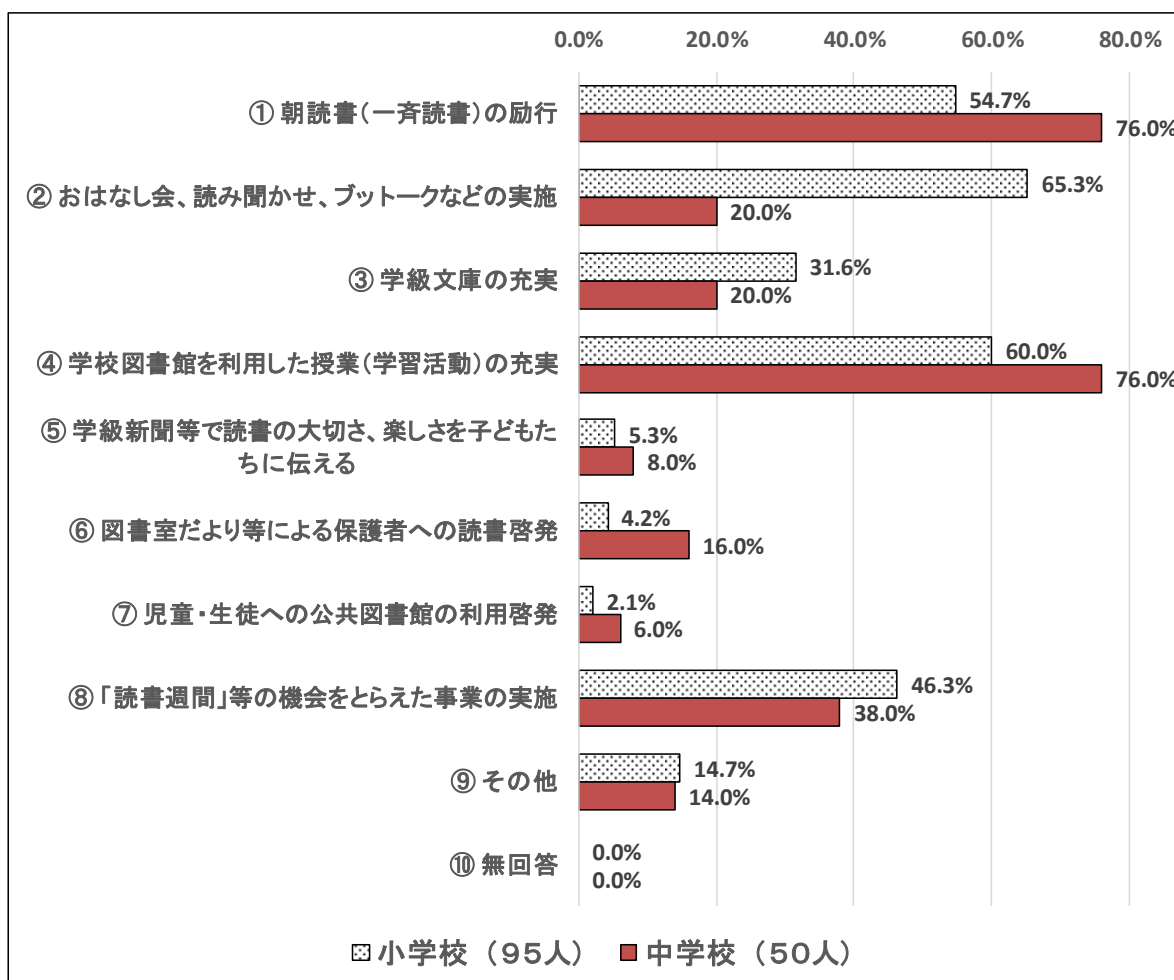
○「③ 全体的に不十分であると思う」と「② 分野によっては不十分であると思う」と回答した割合の合計が小学校で 95.8%、中学校で 84.0%となっており、本の数が不十分と感じている割合が非常に高くなっている。

問 2（2） あなたの学校図書館では、授業（学習活動）のための本の質（蔵書の新鮮度や充実度）は足りていると思いますか



○「③ 全体的に不十分であると思う」と「② 分野によっては不十分であると思う」と回答した割合の合計が小学校で 91.6%、中学校で 86.0%となっており、本の質についても不十分と感じている割合が非常に高くなっている。

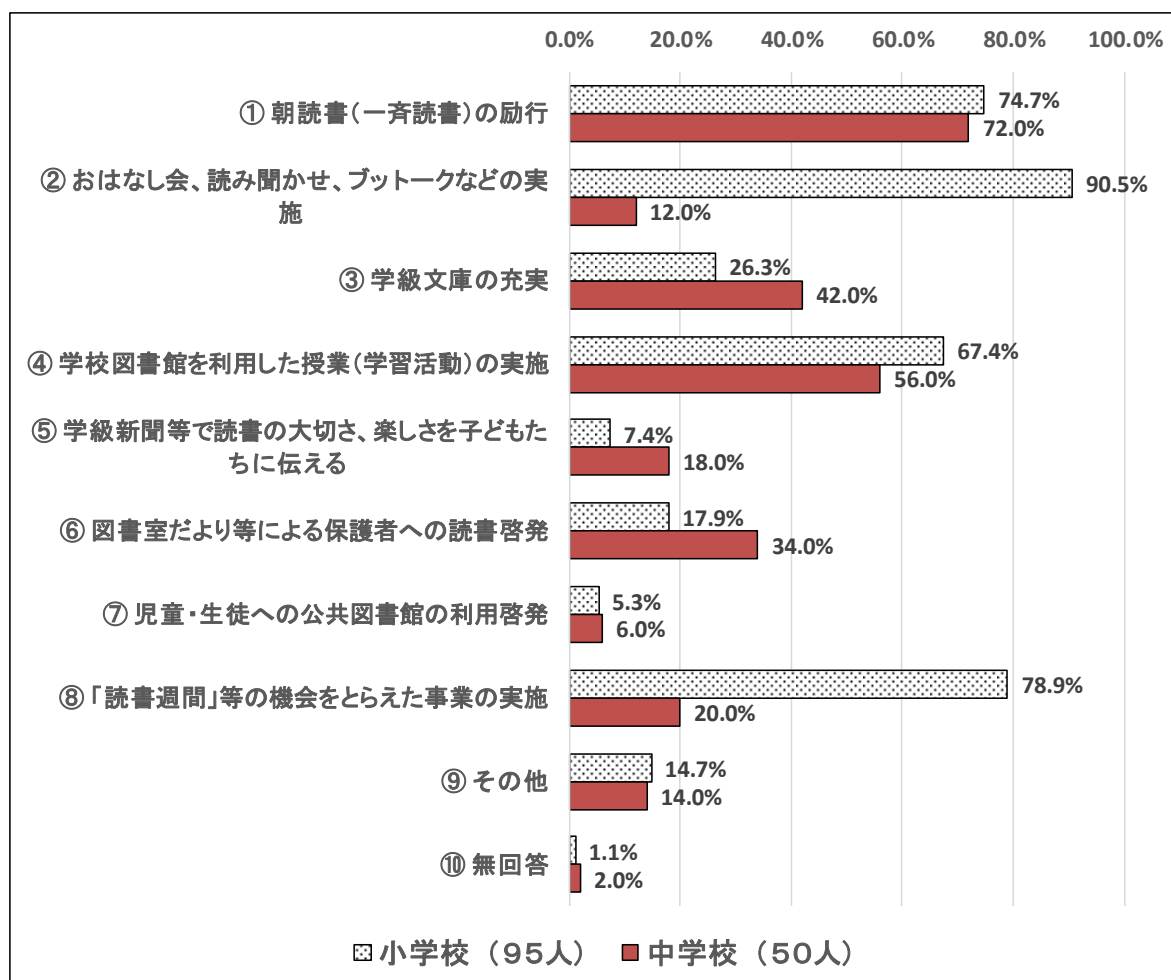
問3 子どもたちが自ら本に親しむようになるためには、学校では主にどんな取組が必要と思いますか（3つまで）



○小学校では、「② おはなし会、読み聞かせ、ブックトークなどの実施」と回答した割合が 65.3%で最も高く、「④ 学校図書館を利用した授業（学習活動）の充実」が 60.0%で続いている。

○中学校では、「① 朝読書（一斉読書）の励行」と「④ 学校図書館を利用した授業（学習活動）の充実」と回答した割合がいずれも 76.0%で最も高くなっている。

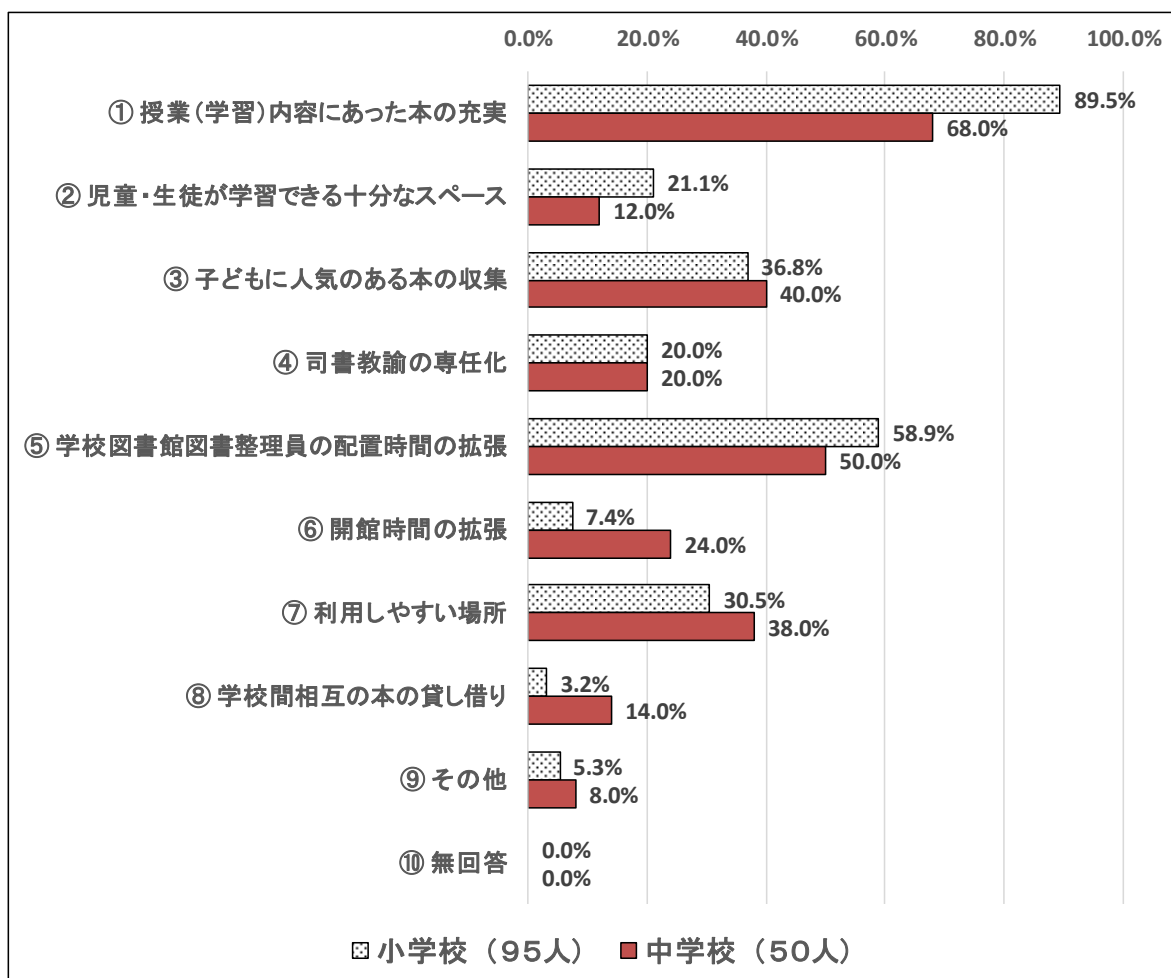
**問4 あなたの学校で、昨年度（平成29年度）に実際に取り組んだことは何ですか
（該当するものすべて）**



○小学校では、「② おはなし会、読み聞かせ、ブックトークなどの実施」と回答した割合が90.5%で最も高く、「⑧ 「読書週間」等の機会をとらえた事業の実施」が78.9%、「① 朝読書（一斉読書）の励行」が74.7%で続いている。

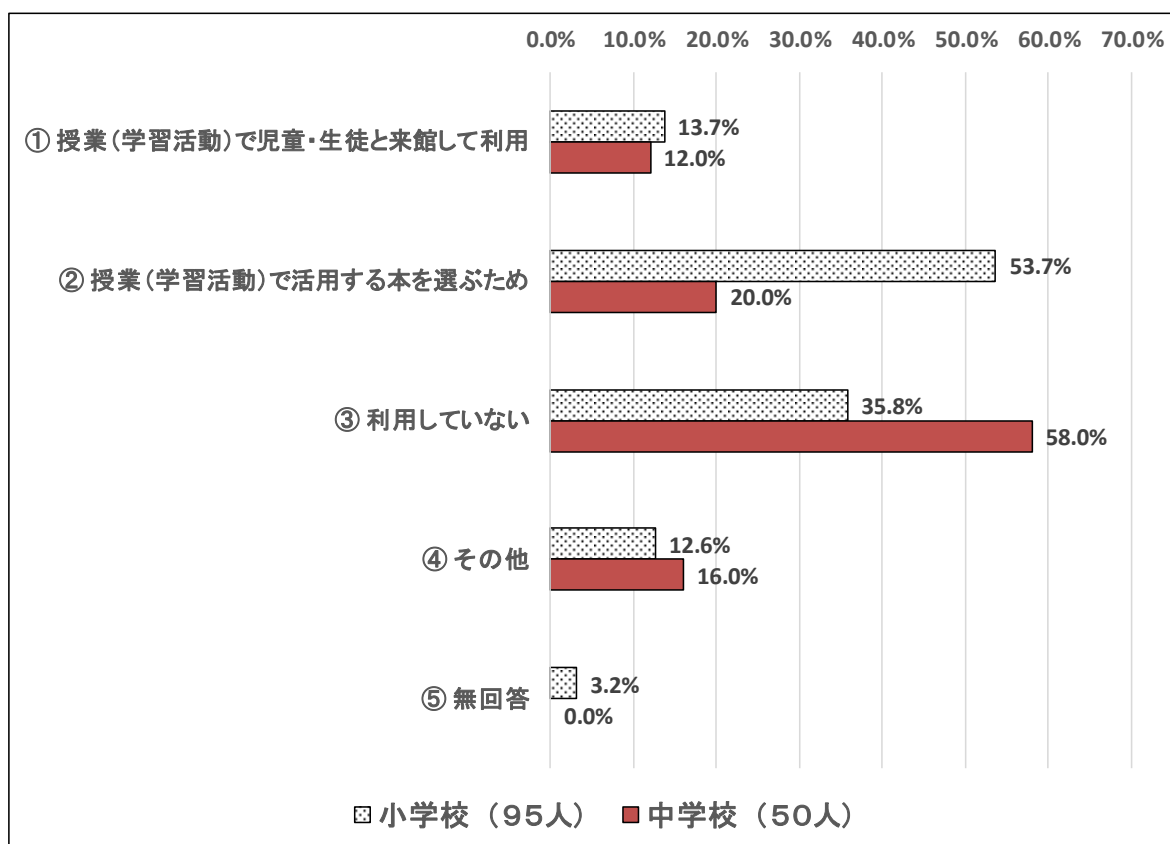
○中学校では、「① 朝読書（一斉読書）の励行」と回答した割合が72.0%で最も高く、「④ 学校図書館を利用した授業（学習活動）の実施」が56.0%、「③ 学級文庫の充実」が42.0%で続いている。

問5 子どもの読書を推進するために、今後、学校図書館に必用と思われることは何ですか（3つまで）



○小学校、中学校とも「① 授業（学習）内容にあった本の充実」と回答した割合が最も高く（小学校 89.5%、中学校 68.0%）、「⑤ 学校図書館図書整理員の配置時間の拡張」が続いている（小学校 58.9%、中学校 50.0%）。

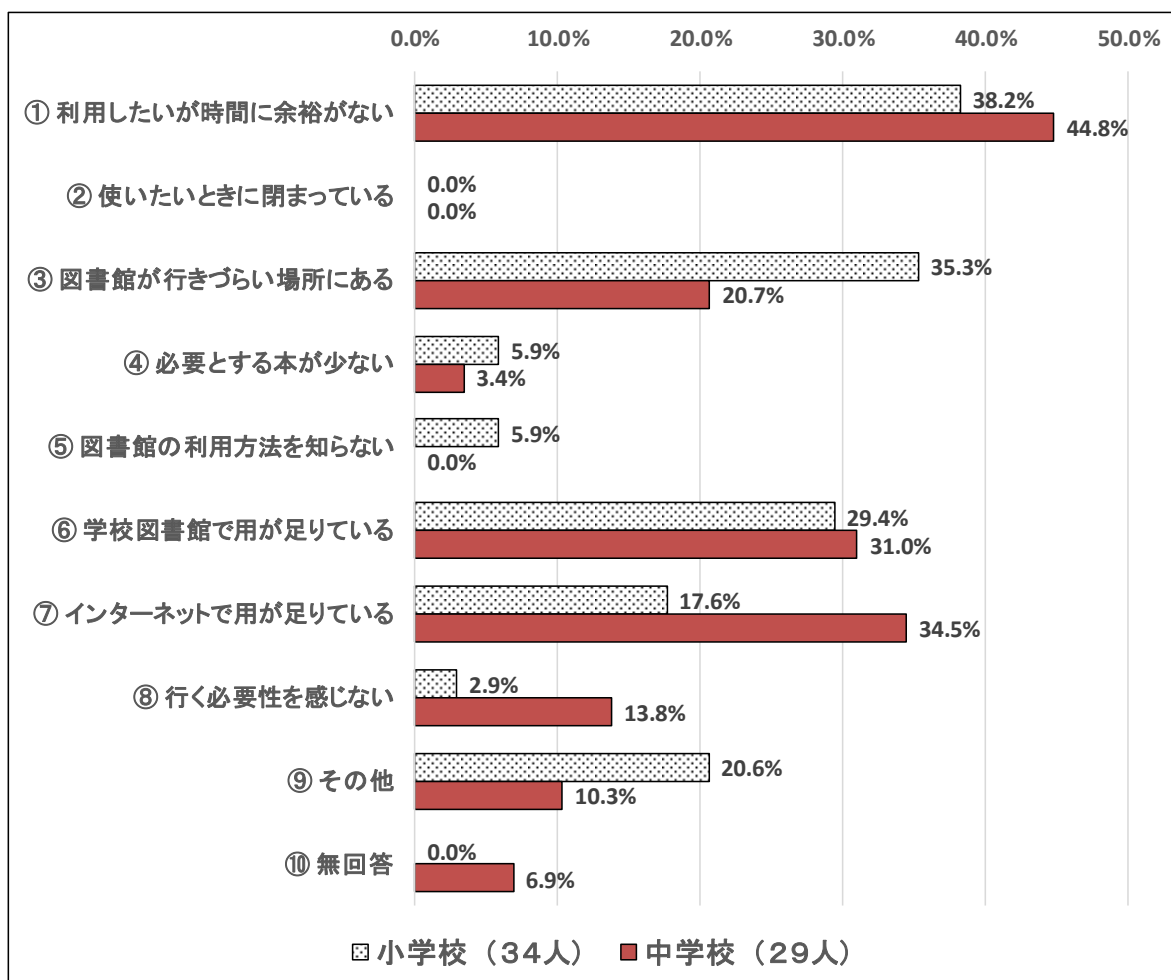
問 6（１） あなたの学校では、授業（学習活動）において、どのような目的で公共図書館を利用しますか（該当するものすべて）



○小学校では、「② 授業（学習活動）で活用する本を選ぶため」と回答した割合が 53.7%で最も高く、「③ 利用していない」が 35.8%で続いている。

○中学校では、「③ 利用していない」と回答した割合が 58.0%で最も高く、「② 授業（学習活動）で活用する本を選ぶため」が 20.0%で続いている。

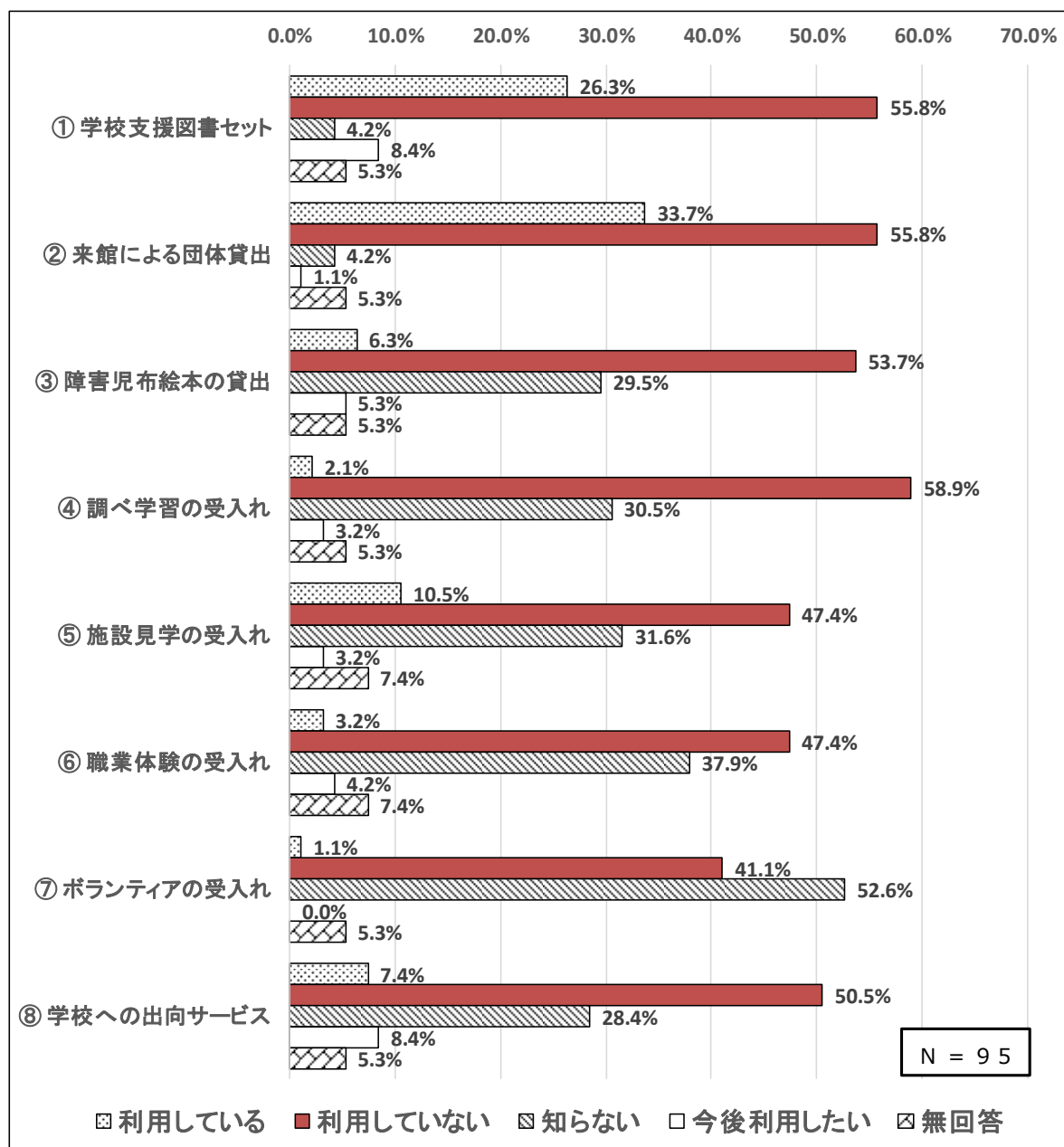
問6（2）（1）で「利用していない」と答えた人に聞きます。利用しない理由は何ですか（3つまで）



〇小学校、中学校とも「① 利用したいが時間に余裕がない」と回答した割合が最も高く（小学校 38.2%、中学校 44.8%）、続いて小学校では、「③ 図書館が行きづらい場所にある」（35.3%）、中学校では、「⑦ インターネットで用が足りている」（34.5%）となっている。

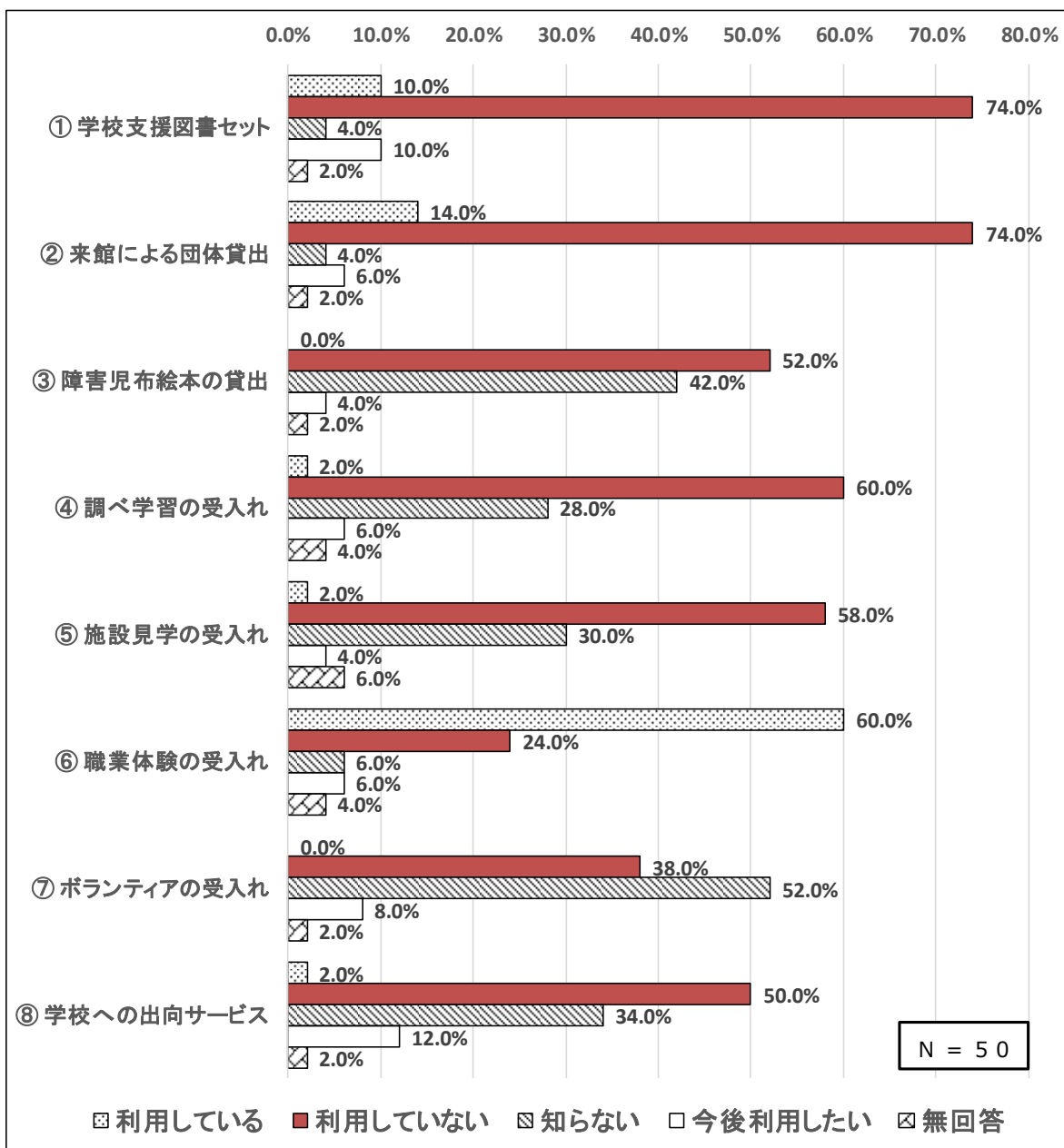
問7 学校や学校図書館に公共図書館が行っている支援で、知っているものや利用したことがあるものはありますか

(1) 小学校



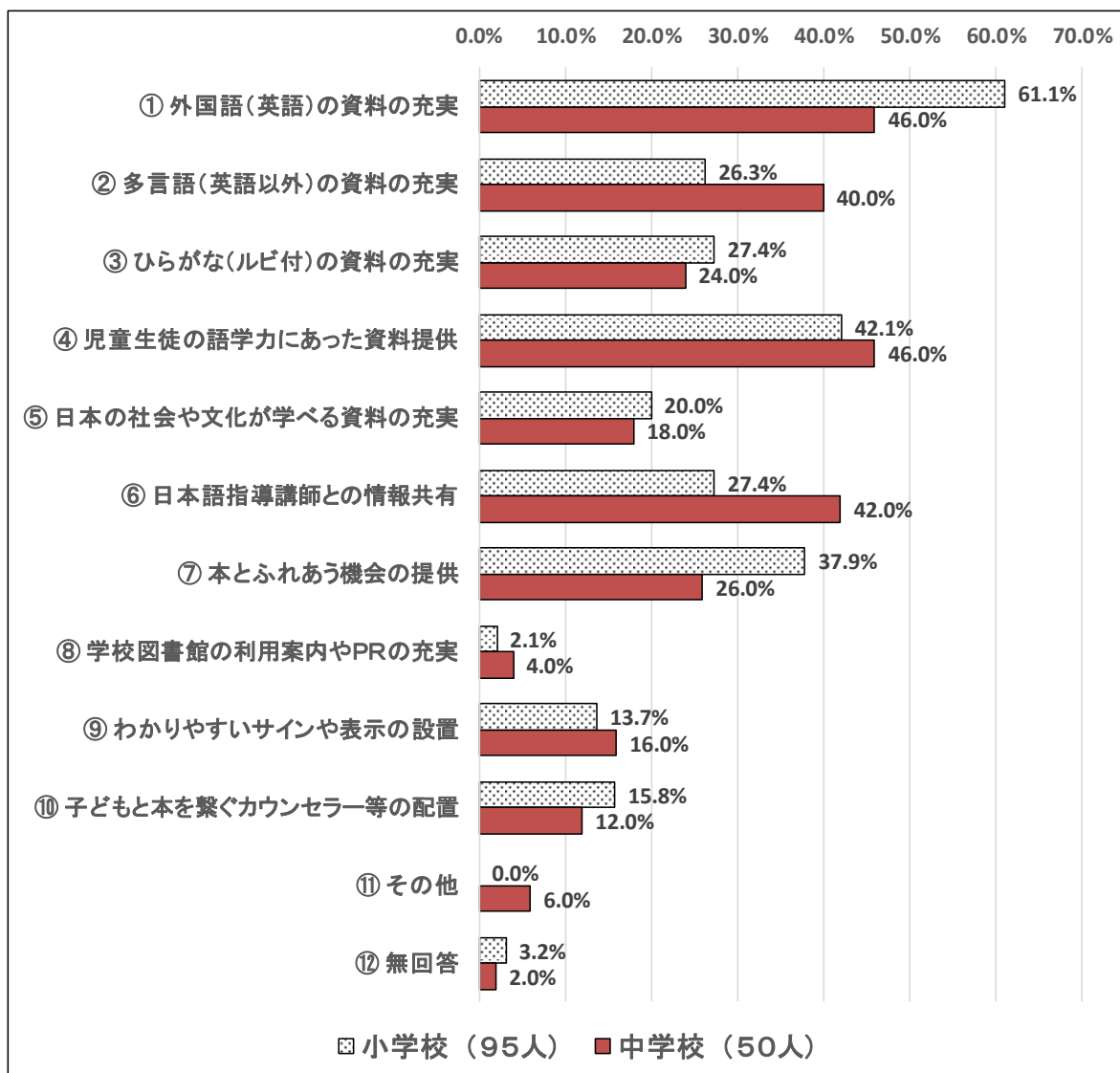
○「利用している」と回答した割合が最も高かったのは、「② 来館による団体貸出」の33.7%で、全体的に制度があまり利用されていない状況にあり、特に、④～⑦の制度については、30%以上が「知らない」と回答している。

(2) 中学校



○「利用している」と回答した割合が最も高かったのは、「⑥ 職業体験の受入れ」の60.0%で、他の制度はあまり利用されていない状況にあり、特に、③、⑤、⑦、⑧の制度については、30%以上が「知らない」と回答している。

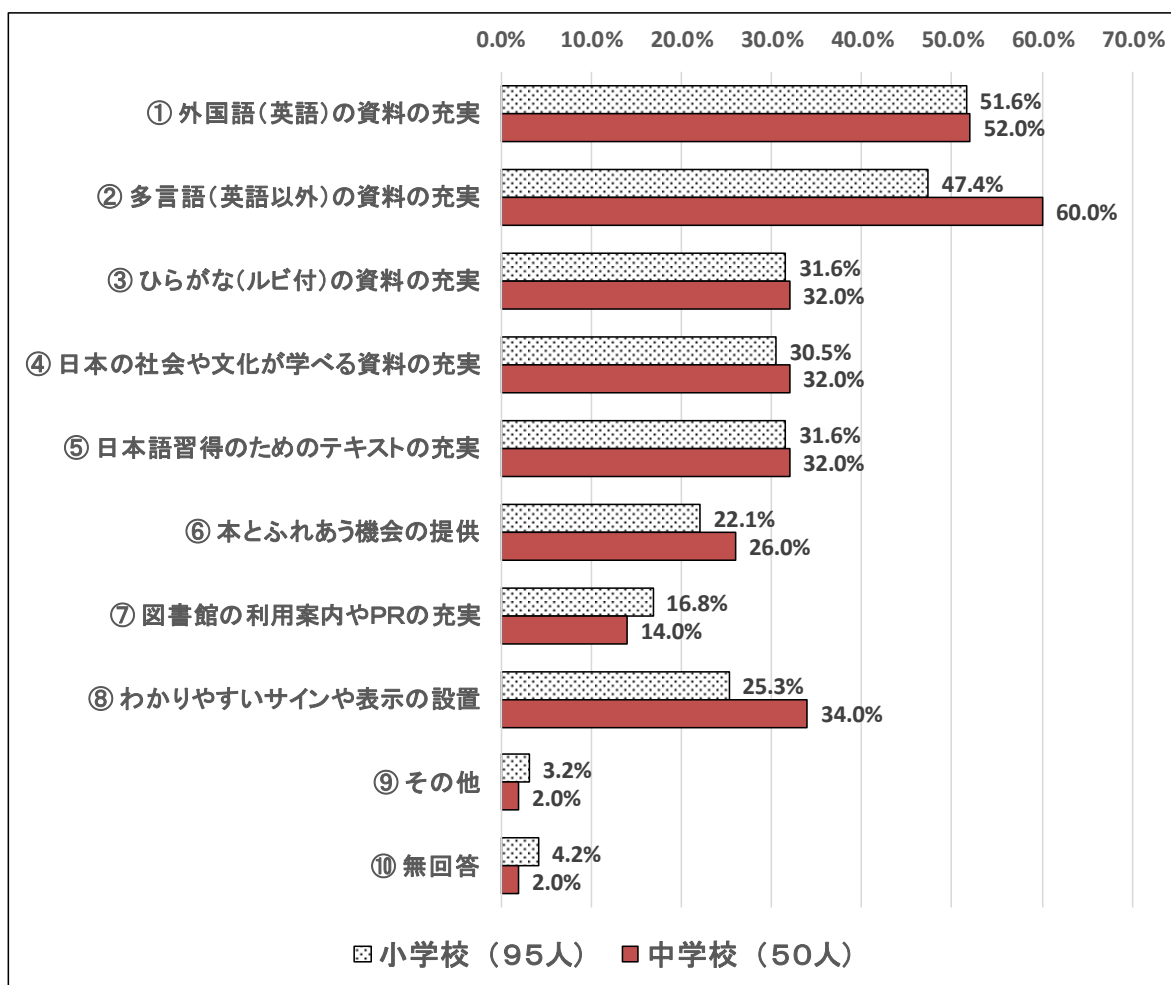
問8 外国につながる児童生徒の読書活動の推進について、学校図書館で必要と思われる取組を伺います（3つまで）



○小学校では、「① 外国語（英語）の資料の充実」と回答した割合が 61.1%で最も高く、「④ 児童生徒の語学力にあった資料提供」が 42.1%で続いている。

○中学校では、「① 外国語（英語）の資料の充実」と「④ 児童生徒の語学力にあった資料提供」と回答した割合がいずれも 46.0%で最も高くなっている。

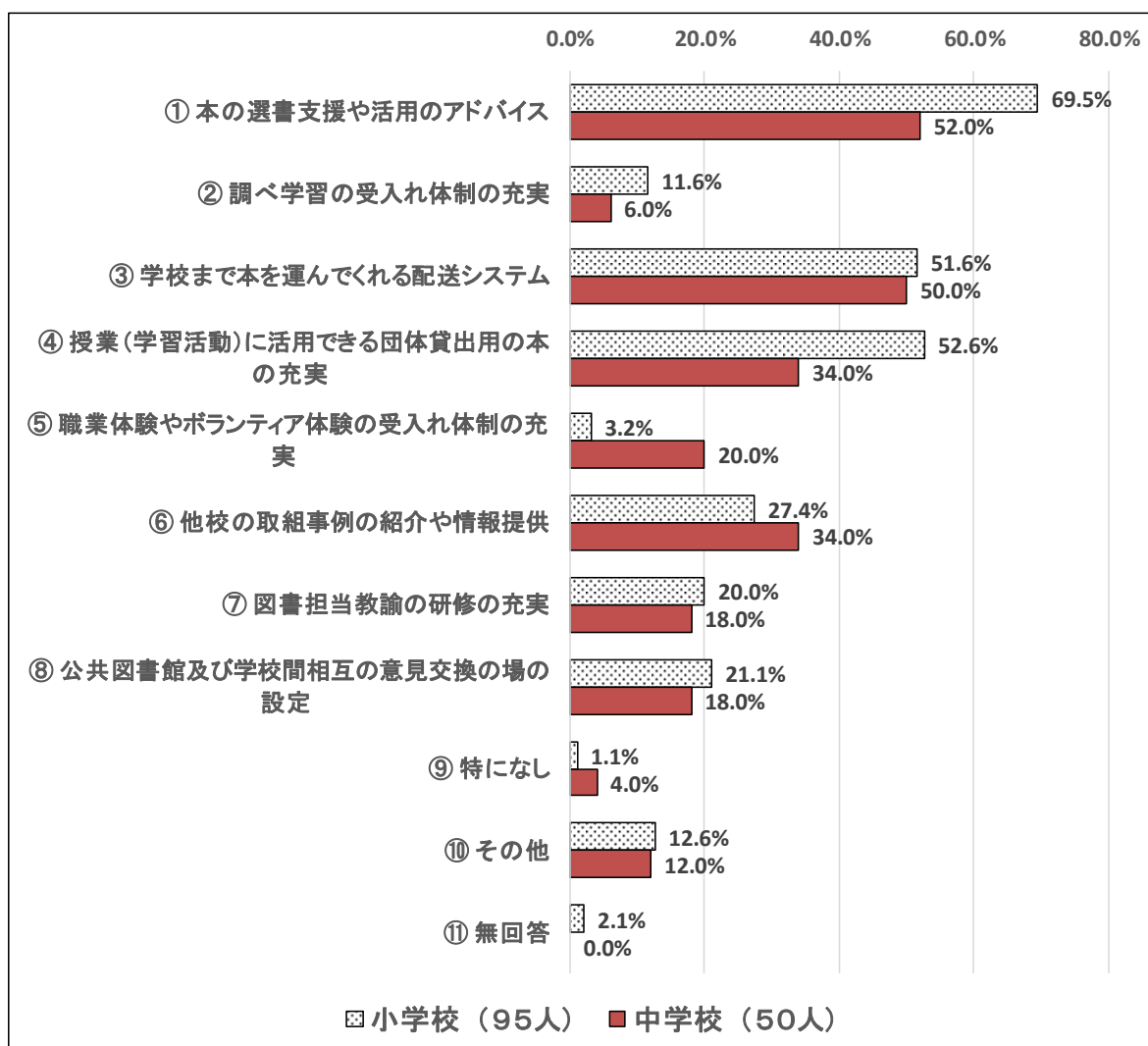
問9 外国につながる児童生徒の読書活動の推進について、公共図書館で必要と思われる取組を伺います（3つまで）



○小学校では、「① 外国語（英語）の資料の充実」と回答した割合が 51.6%で最も高く、「② 多言語（英語以外）の資料の充実」が 47.4%で続いている。

○中学校では、「② 多言語（英語以外）の資料の充実」と回答した割合が 60.0%で最も高く、「① 外国語（英語）の資料の充実」が 52.0%で続いている。

問 10 学校や学校図書館に向けた支援として、公共図書館や行政に期待することは何ですか（3つまで）

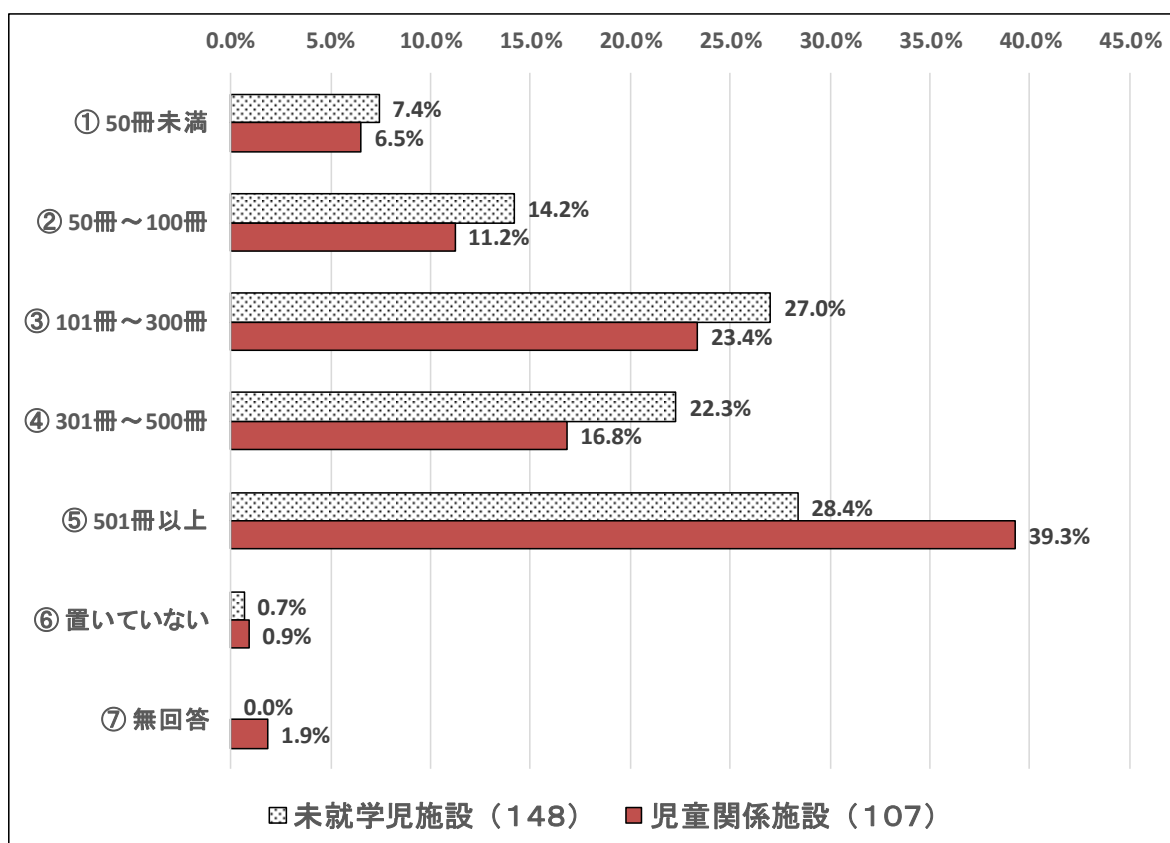


○小学校では、「① 本の選書支援や活用のアドバイス」と回答した割合が 69.5%で最も高く、「④ 授業（学習活動）に活用できる団体貸出用の本の充実」が52.6%、「③ 学校まで本を運んでくれる配送システム」が51.6%で続いている。

○中学校では、「① 本の選書支援や活用のアドバイス」と回答した割合が 52.0%で最も高く、「③ 学校まで本を運んでくれる配送システム」が50.0%で続いている。

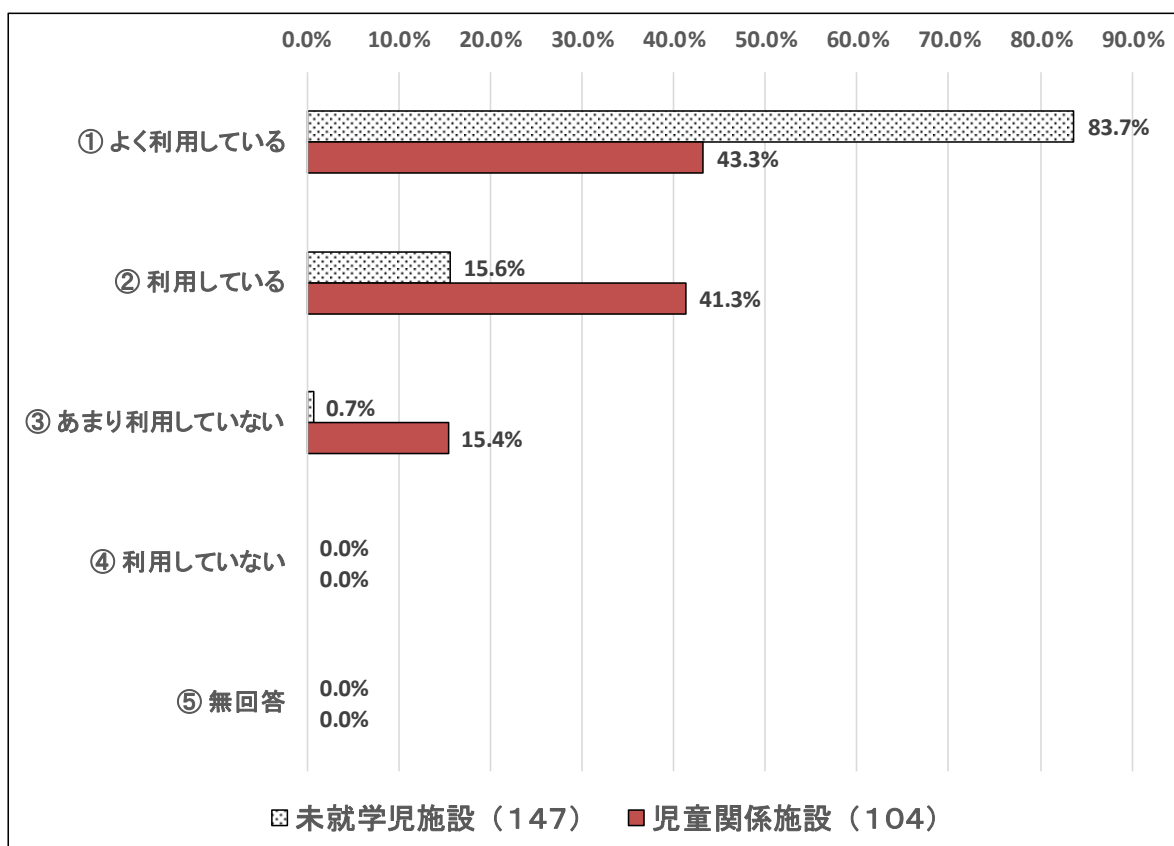
（３）未就学児施設（幼稚園、保育所、認定こども園、地域型保育事業所、認定保育室）、児童関係施設（児童館、子どもセンター、児童クラブ）

問１ 施設内に子ども用の本や紙芝居がどのくらいありますか



○未就学児施設、児童関係施設とも「⑤ 501 冊以上」と回答した割合が最も高く（未就学児施設 28.4%、児童関係施設 39.3%）で最も高く、次いで「③ 101 冊～300 冊」（未就学児施設 27.0%、児童関係施設 23.4%）、「④ 301 冊～500 冊」（未就学児施設 22.3%、児童関係施設 16.8%）と続いている。

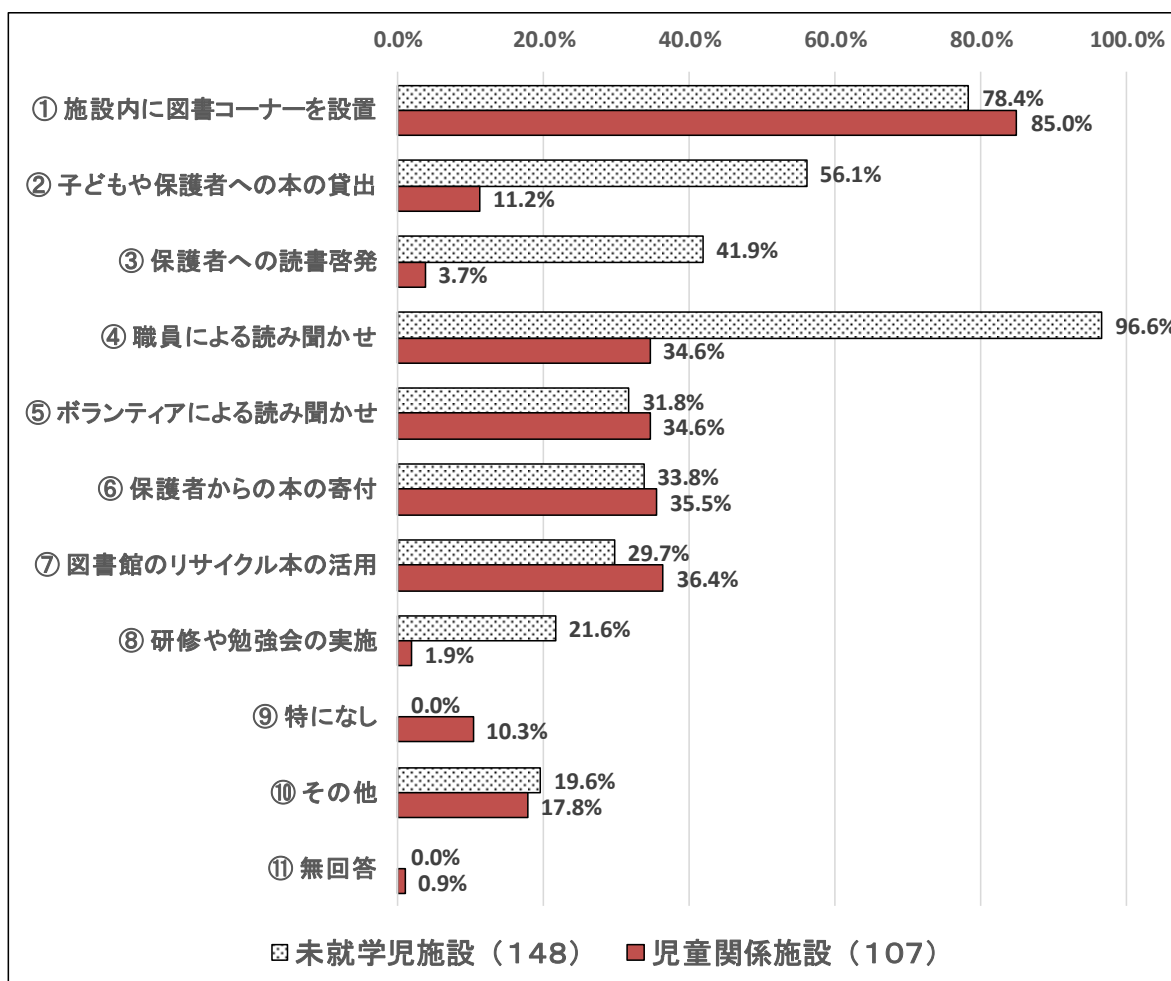
問2 施設内にある絵本や紙芝居を子どもたちはどのくらい利用していますか（問1で①～⑤と回答した施設のみ）



○未就学児施設では、「① よく利用している」と回答した割合が 83.7%、「② 利用している」と回答した割合が 15.6%となっている。

○児童関係施設では、「① よく利用している」と回答した割合が 43.3%、「利用している」と回答した割合が 41.3%となっている。

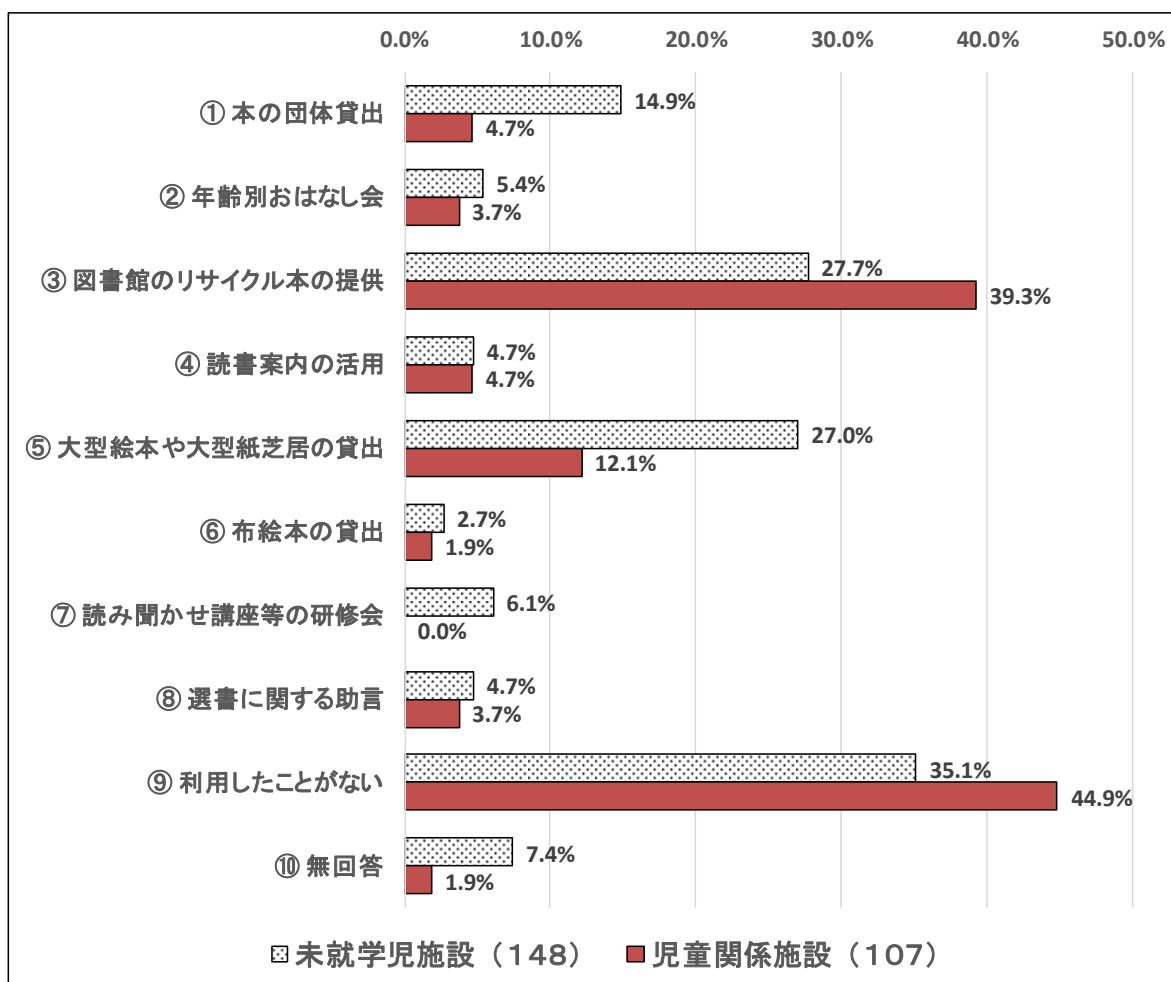
問3 子どもの読書に関わることで、どのような取組をしていますか（あてはまるものすべて）



○未就学児施設では、「④ 職員による読み聞かせ」と回答した割合が 96.6%で最も高く、「① 施設内に図書コーナーを設置」が 78.4%で続いている。

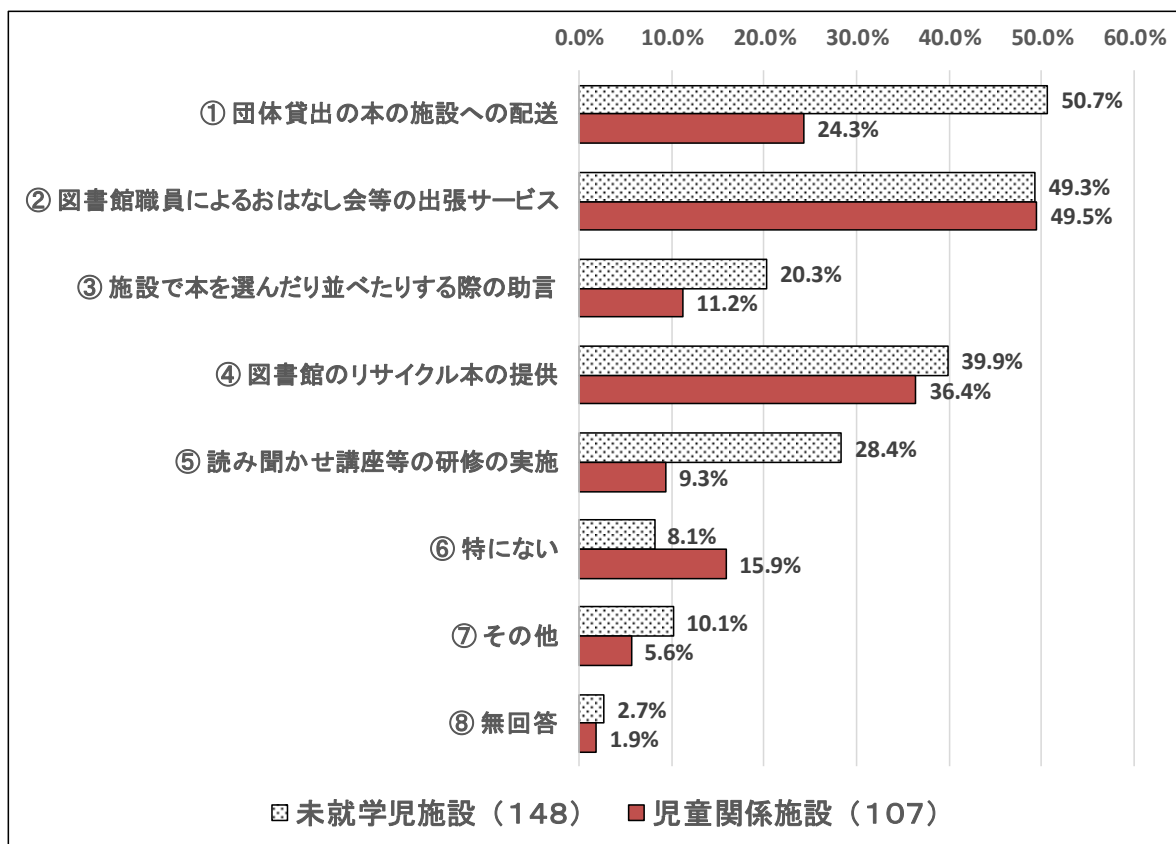
○児童関係施設では、「① 施設内に図書コーナーを設置」と回答した割合が 85.0%で最も高く、「⑦ 図書館リサイクル本の活用」が 36.4%で続いている。

問4 図書館で行っている施設向けの支援の中で、利用したことがあるものは何ですか（あてはまるものすべて）



○未就学児施設、児童関係施設とも「⑨ 利用したことがない」と回答した割合が最も高く（未就学児施設 35.1%、児童関係施設 44.9%）、利用したことがある支援では、「③ 図書館のリサイクル本の提供」が最も高くなっている（未就学児施設 27.7%、児童関係施設 39.3%）。

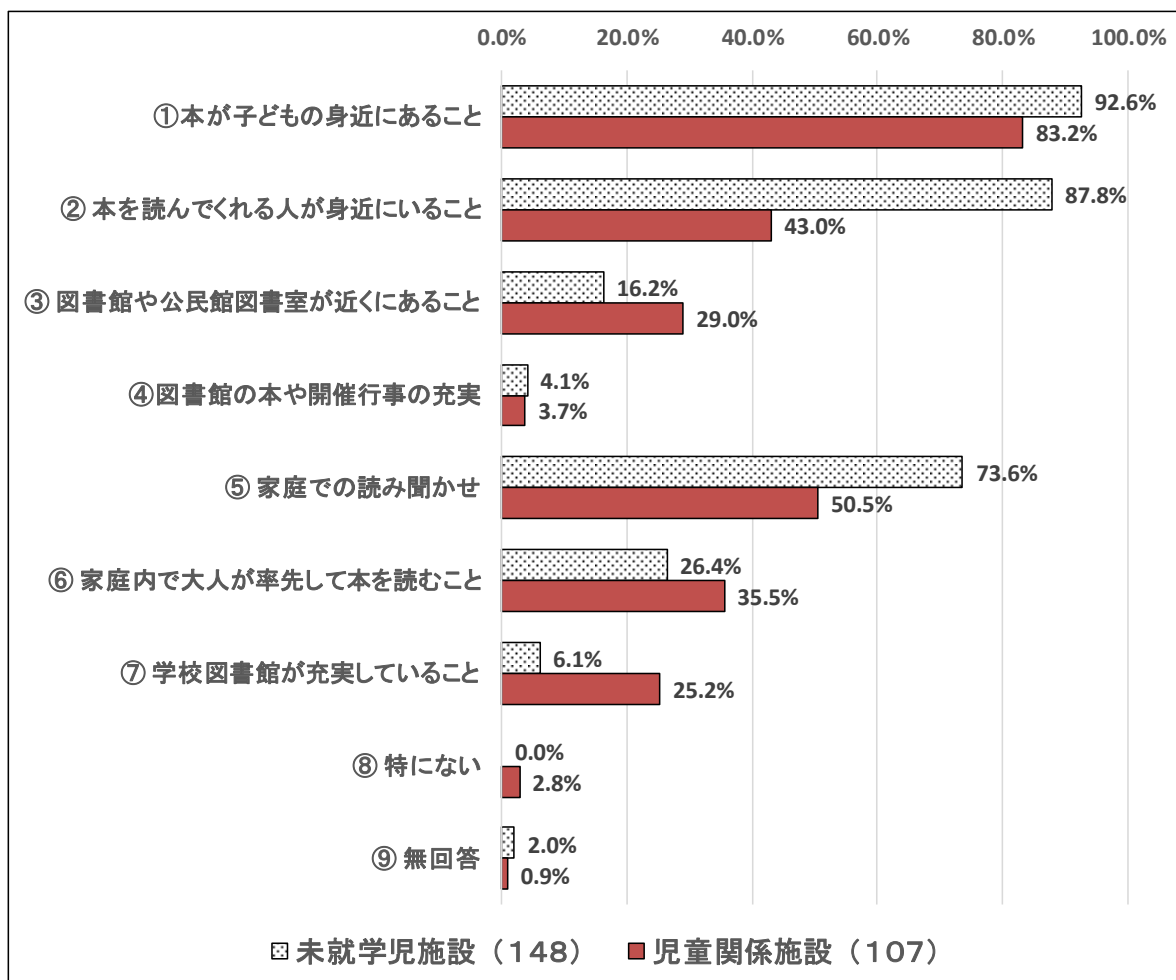
**問5 図書館の施設向け支援で、どのようなものがあれば利用したいと思いますか
(3つまで)**



○未就学児施設では、「① 団体貸出の本の施設への配送」と回答した割合が 50.7%で最も高く、「② 図書館職員によるおはなし会等の出張サービス」が 49.3%が続いている。

○児童関係施設では、「② 図書館職員によるおはなし会等の出張サービス」と回答した割合が 49.5%で最も高く、「④ 図書館のリサイクル本の提供」が 36.4%が続いている。

問6 子どもの読書を推進するために必要と思われることは何ですか（3つまで）

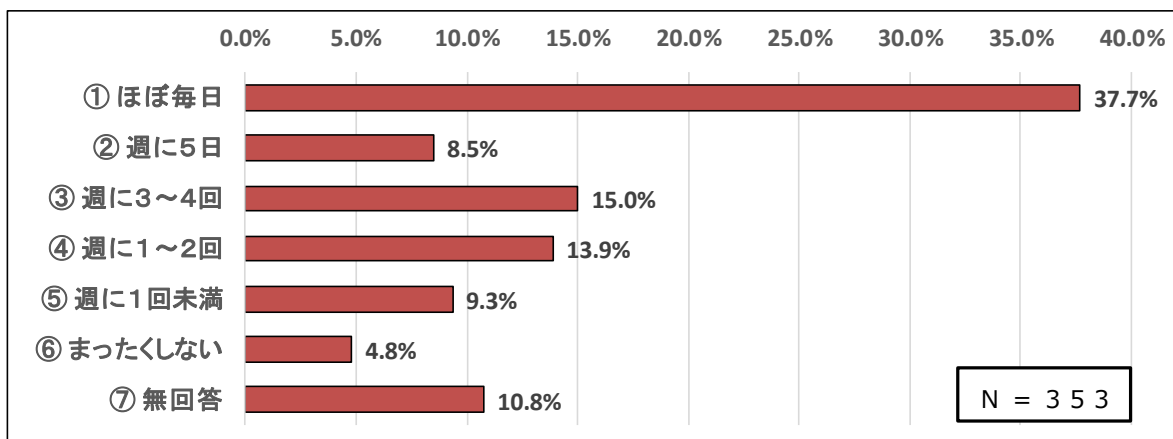


○未就学児施設では、「① 本が子どもの身近にあること」と回答した割合が 92.6%で最も高く、「② 本を読んでもくれる人が身近にいること」が 87.8%、「⑤ 家庭での読み聞かせ」が 73.6%で続いている。

○児童関係施設では、「① 本が子どもの身近にあること」と回答した割合が 83.2%で最も高く、「⑤ 家庭での読み聞かせ」が 50.5%、「② 本を読んでもくれる人が身近にいること」が 43.0%で続いている。

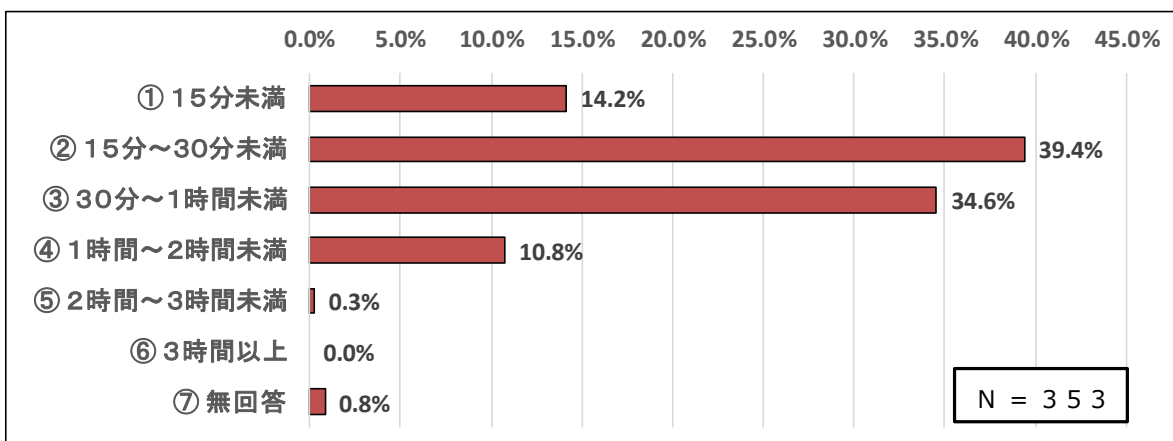
(4) 図書館に子どもと一緒に来館した保護者

問1 図書館にある子どもの本のコーナーをどのくらい利用しますか



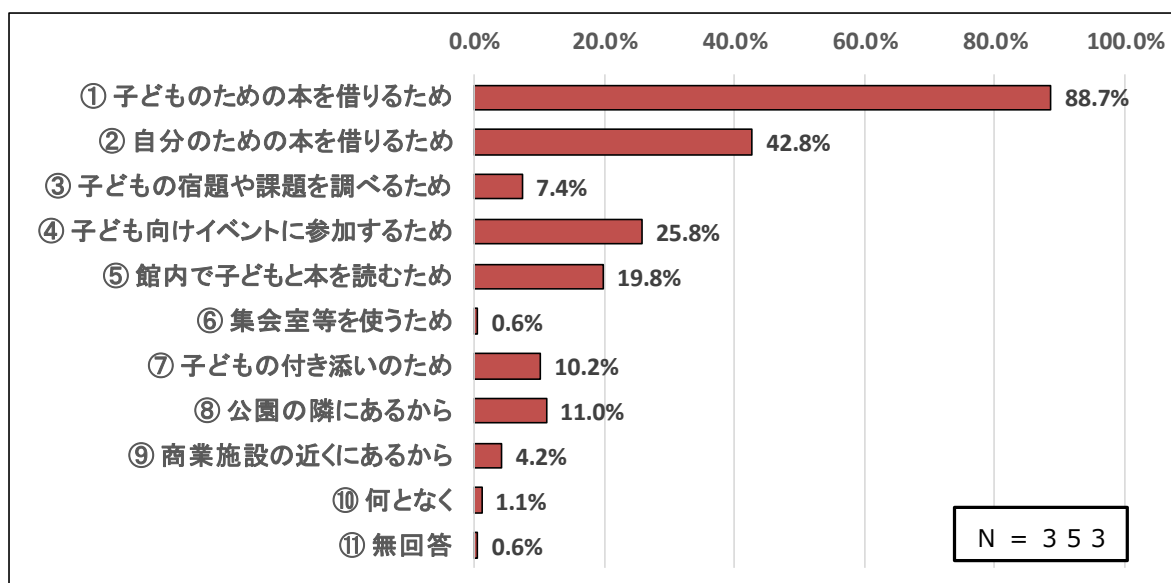
○「③ 月1～2回」と回答した割合が53.3%で最も高く、「② 週1～2回」が20.7%、「④ 2～3か月に1回」が13.6%が続いている。

問2 子どもの本のコーナーでの滞在時間はおおよそどのくらいですか



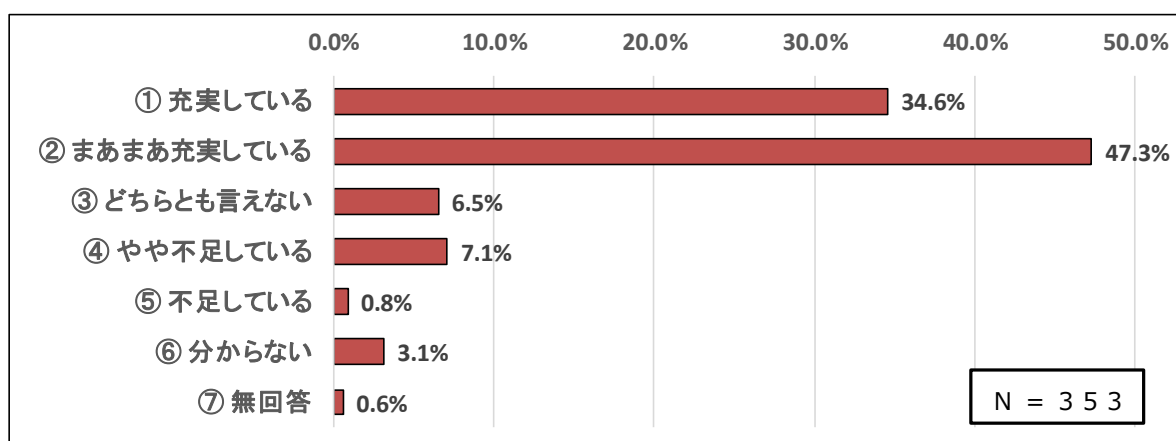
○「② 15分～30分未満」と回答した割合が39.4%で最も高く、「③ 30分～1時間未満」が34.6%、「① 15分未満」が14.2%が続いている。

問3 図書館を利用する主な目的は何ですか（3つまで）



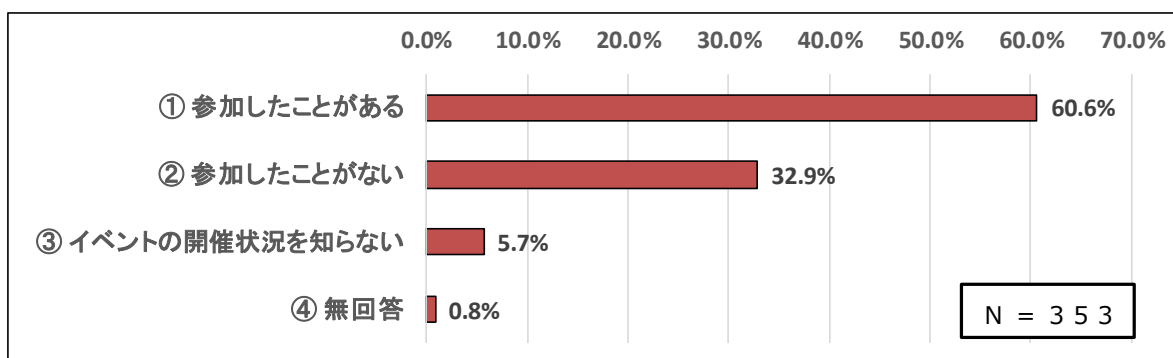
- 「① 子どものための本を借りるため」と回答した割合が88.7%で最も高く、「② 自分のための本を借りるため」が42.8%、「④ 子ども向けイベントに参加するため」が25.8%で続いている。
- 「⑤ 館内で子どもと本を読むため」と回答した割合は、19.8%にとどまっている。

問4 図書館の子ども向けの本についてどう思いますか



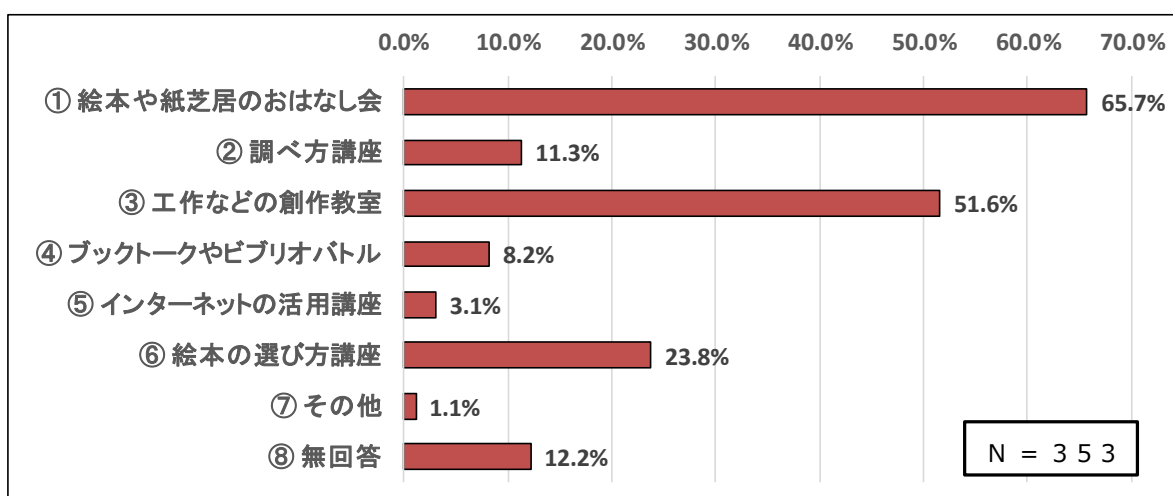
- 「① 充実している」、「② まあまあ充実している」と回答した割合の合計が81.9%となっており、「⑤ 不足している」、「④ やや不足している」と回答した割合の合計が7.9%となっている。

問5 図書館で行われている子ども向けのイベント等についてお答えください



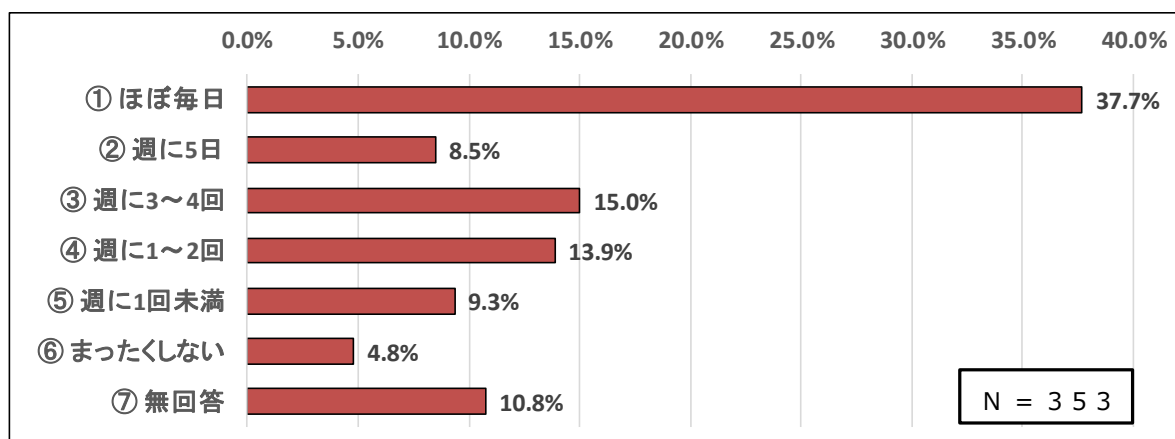
○「① 参加したことがある」と回答した割合は、60.6%で、「② 参加したことがない」と「③ イベントの開催状況を知らない」と回答した割合の合計は、38.6%になっている。

問6 図書館で行う子ども向けのイベント等で参加してみたいものは何ですか（3つまで）



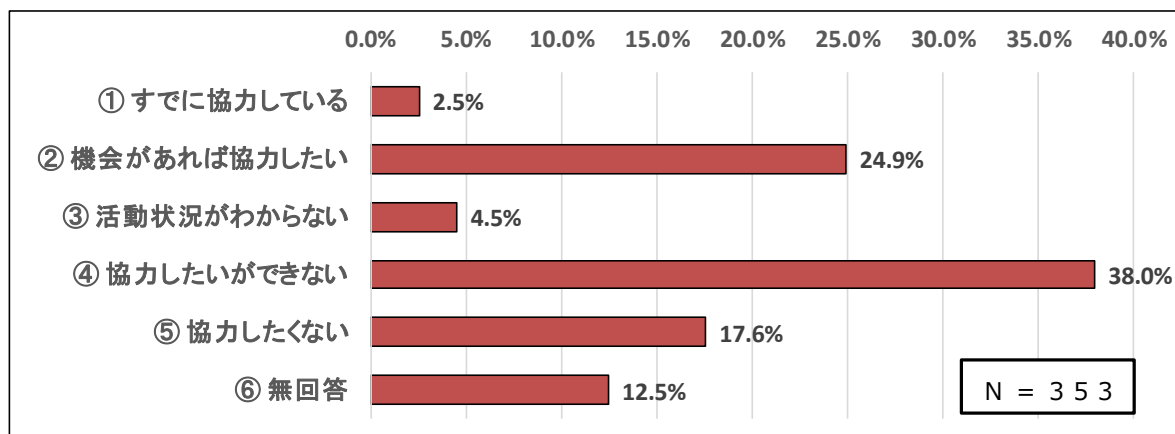
○「① 絵本や紙芝居のおはなし会」と回答した割合が65.7%で最も高く、「③ 工作などの創作教室」が51.6%、「⑥ 絵本の選び方講座」が23.8%が続いている。

問7 ご家庭でお子さんと絵本を見たり、読み聞かせしたりすることがありますか



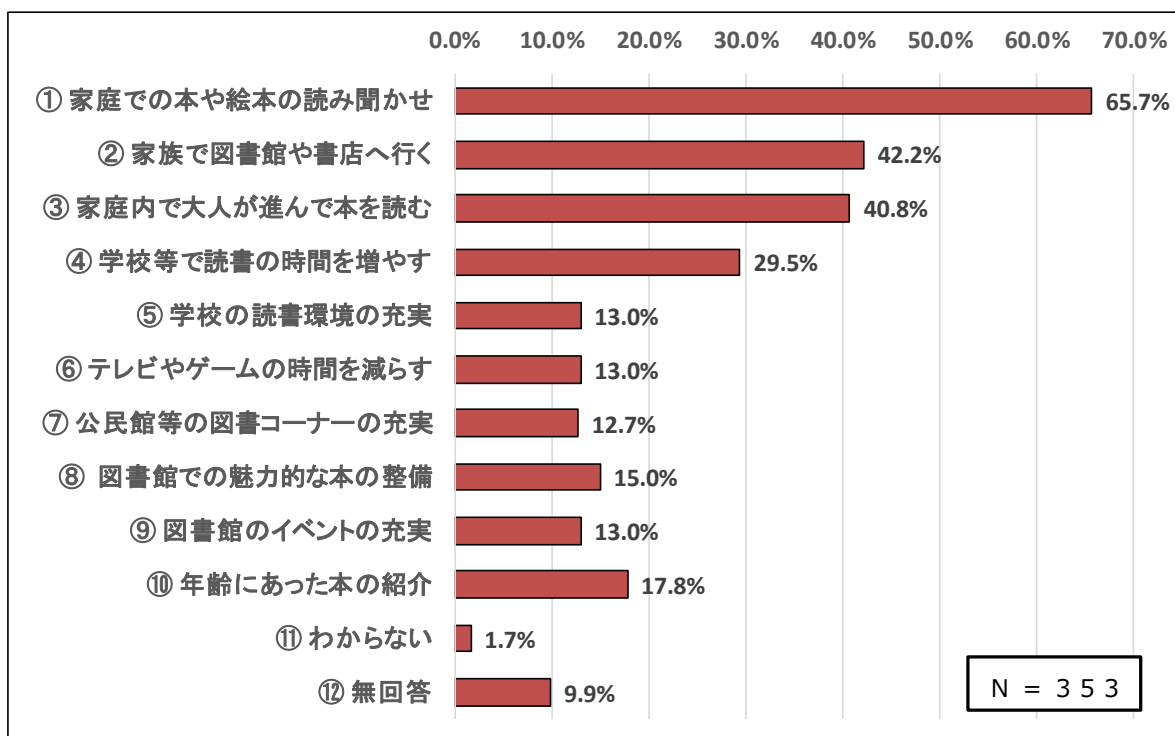
- 「① ほぼ毎日」と回答した割合が37.7%で最も高く、「③ 週に3~4回」が15.0%、「④ 週に1~2回」が13.9%が続いている。
- 「⑥ まったくしない」と回答した割合が4.8%となっている。

問8 読み聞かせボランティア等の活動について、協力したいと思いますか



- 「④ 協力したいができない」と回答した割合が38.0%で最も高く、「② 機会があれば協力したい」が24.9%、「⑤ 協力したくない」が17.6%が続いている。

問9 今後どのようにすれば子どもたちがより本や絵本に親しめるようになると思いますか（3つまで）



○「① 家庭での本や絵本の読み聞かせ」と回答した割合が65.7%で最も高く、「② 家族で図書館や書店へ行く」が42.2%、「③ 家庭内で大人が進んで本を読む」が40.8%で続いている。

3 ヒアリング結果

(1) 図書館で活動している読み聞かせボランティア

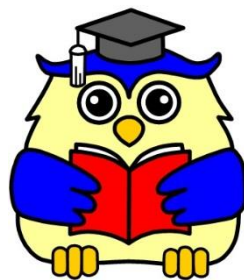
質問事項	回 答
活動に使用する図書等はどのようにして入手していますか	☐ 図書館で借りている ☐ 書店で購入している ☐ 私物を使用している ☐ パネルシアターや人形等は手作りのものを使用している
どのようなことを基準に図書等を選んでいきますか	☐ 図書館のスタッフによるおすすめや、図書館が発行するブックリストからの情報 ☐ インターネットの書評サイト ☐ 子どもたちが興味を持ち楽しめる本や、時節に見合った本 ☐ 長い間読み継がれている本 ☐ 読み手自身が好きな本
活動を通して嬉しいと感じることはありますか	☐ 子どもや保護者が笑顔で楽しんでもくれること ☐ おはなし会後に、読み聞かせた絵本等を手に取ってくれること ☐ ボランティアグループに所属することで、仲間から助言をもらい技術向上に励めること ☐ 図書館が活動場所を提供してくれること
活動する上で苦労していることは何ですか	☐ メンバーの高齢化や縮小化、新メンバーの募集 ☐ プライベートとの両立（親の介護や自身の身体の不調） ☐ メンバーの技術格差 ☐ スキルアップのための講座の不足 ☐ 選書やおはなし会のプログラム作り
行政（図書館）に望むことは何ですか	☐ コミュニティスクールの実施等により、子どもと地域の人々が触れ合える環境づくり ☐ ボランティアを受け入れる継続的な体制づくり ☐ 新着図書の定期的な情報提供 ☐ ボランティアの技術向上を目的とした研修の充実 ☐ 絵本や紙芝居等の資料の充実 ☐ 子ども向け事業の充実 ☐ 学校や保育園と図書館の連携強化 ☐ 子どもが自ら本を選べるよう、本の並べ方や展示方法等の工夫 ☐ 図書館の児童コーナーへのおはなしの部屋や用具置き場の設置 ☐ 利用を希望する施設（保育園等）とボランティアとのマッチングの仕組み作り

(2) 特別支援学校・特別支援学級の教諭

質問事項	回 答
どのような資料が有効と考えますか	○一見、中学生向けの装丁（挿画）だが、内容は児童向けに書かれているもの ○弱視の児童が好んで選ぶ本は、文字の大きいものが多い ○触感や音感を楽しめる本、紙芝居や大型絵本、図鑑などビジュアルに訴えかける本 ○布絵本は、数字を覚えたり、掛け声を一緒に言えるようになる効果がある ○点字絵本を多く所蔵しているが、活用できる子どもは少ない ○しかけ絵本（音が出るようなもの）は高学年の児童が好むので、教材費（保護者からの徴収金）で購入している ○障害の程度は一人ひとり異なるため、児童生徒の特性に応じた資料が有効
子どもの読書活動推進のために必要な取組や環境について、どのように考えますか	○読書に親しむ時間の確保 ○各自の関心に合わせた多様な本に触れられる環境 ○拡大読書機や傾斜機の整備 ○学校図書館の位置が教室から遠く気軽に行けないため、本を教室まで持ち出しできる等の工夫 ○学校図書館の蔵書管理や修繕を行う常勤の司書や専任職員の配置 ○検索の困難さを解消するための電算システム化
行政（図書館）に望むことは何ですか	○おはなし会や紙芝居会など、子どもの世界を広げるきっかけとなるような取組 ○その時々の子どもの障害や学力レベルに見合った対応が必要となるため、特別支援学級独自の資料購入費の確保 ○学校から図書館への移動が困難なため、図書館の資料を学校に配送する方法の工夫 ○授業等で活用できる本の出版情報や、選書の参考になるブックリスト等の提供 ○本の活用事例や、蔵書管理、修繕方法等の他校での実践に関する情報の提供 ○特別支援学級の教諭で構成される勉強会等における図書館の利用案内や資料の紹介 ○特別支援学級の子どもが活用できる学校支援図書セットの用意 ○肢体が不自由な子どもがカーペット上で読めるようなスペースの設置

(3) 図書館で活動している高校生

質問事項	回 答
本を読むきっかけはどんなことですか	○友だちにすすめられて ○先生や親にすすめられて ○図書館や学校図書館で見かけて ○書店や電車広告で見かけて ○図書館で返却されたばかりの本（よく利用されている本）をチェックしている ○学校図書館で配布している読書情報誌等を読んで
本を選ぶ際に何を基準に選びますか	○表紙や挿絵にひかれて ○書名にひかれて ○好きな作家の作品 ○インターネットであらすじを検索して
図書館や公民館の図書室を利用する目的を教えてください	○学校図書館にない本を借りるため ○古い本を借りたり、地図を閲覧するため ○学校が休みの日に本を読むため ○図書館は新刊だけではなく、古い本も借りられるため ○購入に迷う本を試し読みするため ○学校図書館は人が少なすぎて緊張するため
高校生が読書をするために必要なことは何ですか	○学習や受験に役立つ本や、読解力をつける本をすすめる ○教科書に載っているものから興味を持ってもらう ○POPやポスターを掲示する ○映画化された作品やメディアに出ている作品を紹介する ○長編が苦手な人も短編集なら読みやすいと思う ○図書館には「高齢者が多い」「静かにしなくてははいけない」というイメージが強くあるため、多くの中高生が集まる場所（ショッピングモール等）で出張図書館をやれば良いのでは
どんな図書館がいいですか	○新しい本が多い ○学習スペースに余裕があり、個人情報にも配慮がされている ○図書館がすすめる本が年齢別に分かりやすく置いてある ○司書を目指している人や、図書館員に話しかけづらい人のために、司書の仕事を紹介する展示や、図書館員を体験するイベントがある ○スタッフに気軽に相談ができる



第3次相模原市子ども読書活動推進計画

発行日 : 令和2年3月

発行 : 相模原市教育委員会

編集 : 教育局生涯学習部図書館

〒252-0233 相模原市中央区鹿沼台2丁目13番1号

<電話> 042-754-3604

<FAX> 042-754-0746